

福山市在宅介護実態調査報告書

2023年（令和5年）8月

福山市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 実施概要	1
(1) 調査の対象者と配布数.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 抽出基準日.....	1
(4) 調査期間.....	1
3 調査結果の見方	1
II 調査結果	2
A票	2
問1 世帯類型 (S A).....	2
問2 家族等による介護の頻度 (S A).....	3
主な介護者について	4
問3 主な介護者の本人との関係 (S A).....	4
問4 主な介護者の性別 (S A).....	4
問5 主な介護者の年齢 (S A).....	5
問6 主な介護者が行っている介護 (MA).....	5
問7 介護のための離職の有無 (MA).....	7
生活支援サービスについて	8
問8 保険外の支援・サービスの利用状況 (MA).....	8
問9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス (MA).....	11
問10 新型コロナウイルス感染症による精神的・身体的な衰えなどの変化 (S A) ..	14
介護保険の利用について	16
問11 施設等検討の状況 (S A).....	16
問12 本人が抱えている傷病 (MA).....	18
問13 訪問診療の利用の有無 (S A).....	20
問14 介護保険サービスの利用の有無 (S A).....	22
問15 新型コロナ感染症の流行による介護保険サービスの利用の影響 (S A) 23	
問16 利用に影響があったサービスおよび自主的に控えたサービス (MA)..	24
問17 介護保険サービス未利用の理由 (MA).....	25
B票	27
主な介護者のお仕事	27
問1 主な介護者の勤務形態.....	27
問2 主な介護者の方の働き方の調整の状況 (MA).....	28
問3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 (MA)....	31
問4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (S A).....	34
問5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 (MA)....	35

調査対象者の基本属性	37
①年齢（S A）.....	37
②性別（S A）.....	37
③二次判定結果（要介護度）（S A）.....	38
④サービス利用の組み合わせ（S A）.....	38
⑤訪問系サービスの合計利用回数（MA）.....	40
⑥通所系サービスの合計利用回数（MA）.....	40
⑦短期系サービスの合計利用回数（MA）.....	41
⑧障害高齢者の日常生活自立度（S A）.....	42
⑨認知症高齢者の日常生活自立度（S A）.....	43

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、2024年度～2026年度までを計画期間とする「福山市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を把握することを目的に実施したものです。

2 実施概要

(1) 調査の対象者と配布数

調査の対象者と配布数について整理すると、次のとおりです。

調査名	対象者	実施数
在宅介護実態調査	在宅で生活する要支援・要介護認定を受けている市内に居住する 65 歳以上の高齢者	822

(2) 調査方法

要支援・要介護認定の訪問調査時に併せて認定調査員が実施

(3) 抽出基準日

2022 年 10 月 31 日

(4) 調査期間

2022 年 12 月 1 日～2023 年 2 月 28 日

3 調査結果の見方

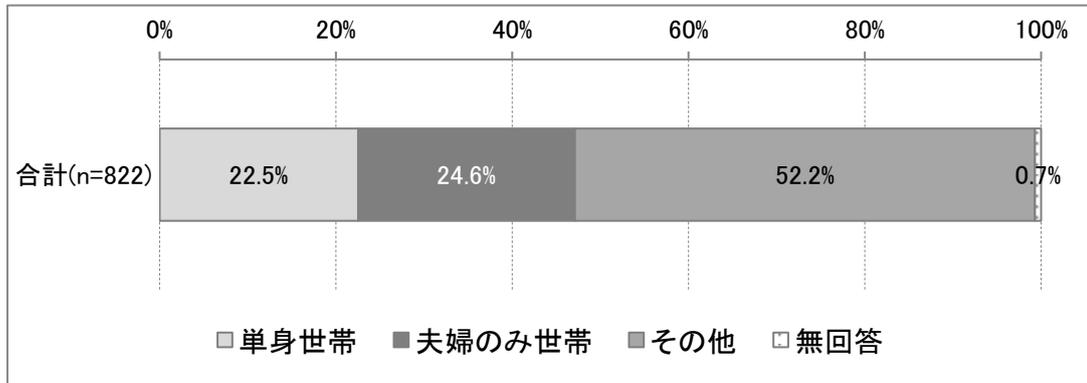
- ◇タイトル右には、設問に応じ、S A（単数回答）、M A（複数回答）を示しています。
- ◇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。
- ◇集計結果のグラフの n の値は、当該設問の回答者数を示しています。
- ◇集計結果のグラフ・表における“無回答”には、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、S A の設問における複数回答等）の件数（票数）が含まれます。
- ◇表における各セルの数値は、上段が実数、下段が比率（％）となっています。
- ◇集計結果のグラフ・表における比率（％）は、小数点第 2 位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が 100％にならない場合があります。

Ⅱ 調査結果

A票

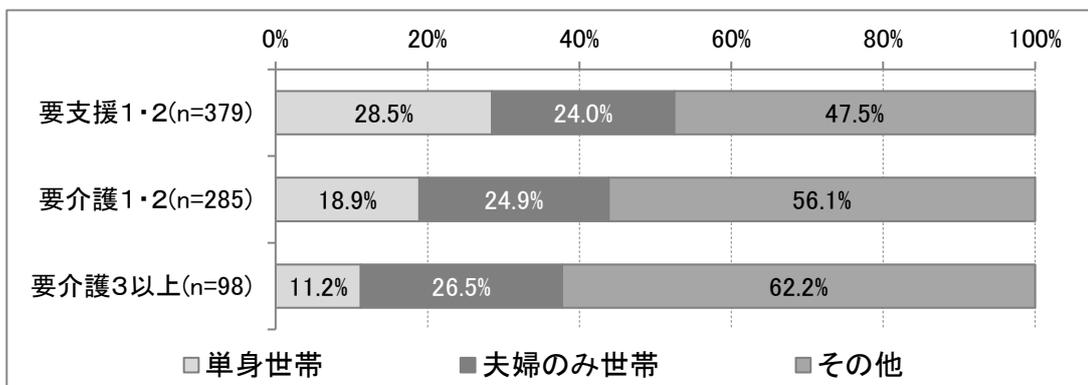
問1 世帯類型（SA）

○「その他」の割合が最も高く52.2%、次いで、「夫婦のみ世帯」が24.6%、「単身世帯」が22.5%となっています。



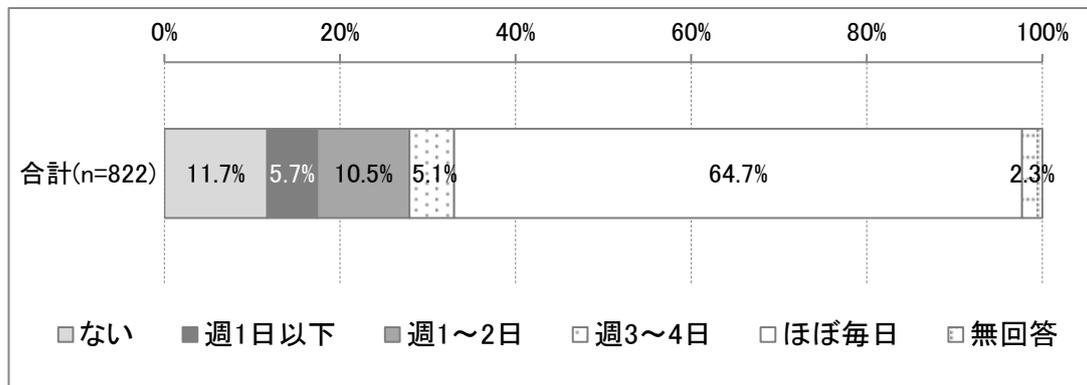
○世帯類型を要介護度別にみると、「単身世帯」は、介護度が重度になるほど割合が低下しており、「要介護3以上」では11.2%となっています。

【要介護度別・世帯類型】



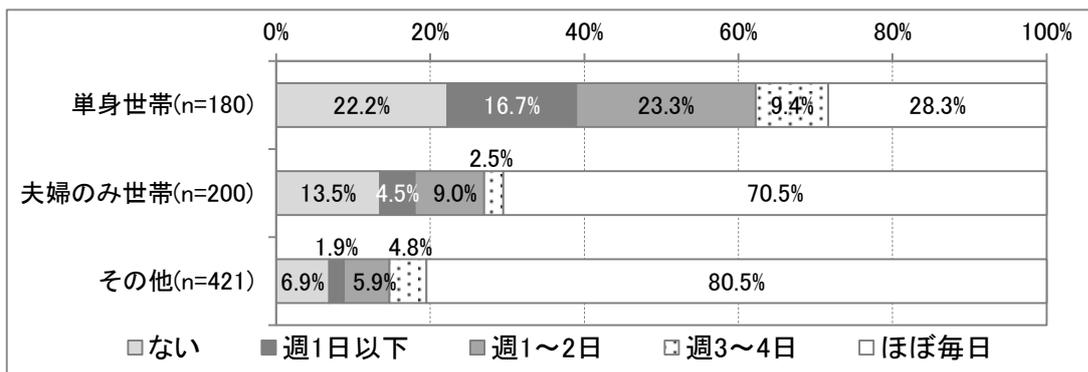
問2 家族等による介護の頻度（SA）

○「ほぼ毎日」の割合が最も高く64.7%，次いで、「ない」が11.7%，「週1～2日」が10.5%となっています。



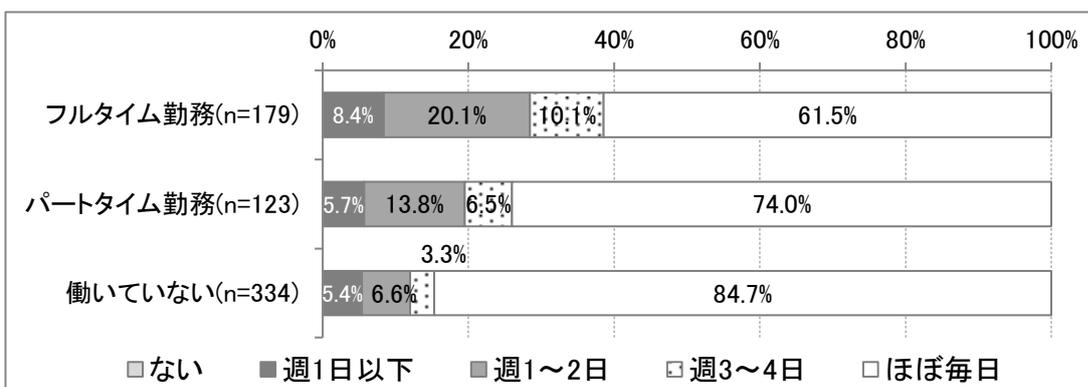
○世帯類型別にみると、「ほぼ毎日」は，“その他”は80.5%，“夫婦のみ世帯”は70.5%と高いが，“単身世帯”では28.3%となっています。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】



○介護者の勤務形態別にみると、「ほぼ毎日」は，“働いていない”では84.7%，“パートタイム勤務”では74.0%，“フルタイム勤務”では61.5%となっています。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

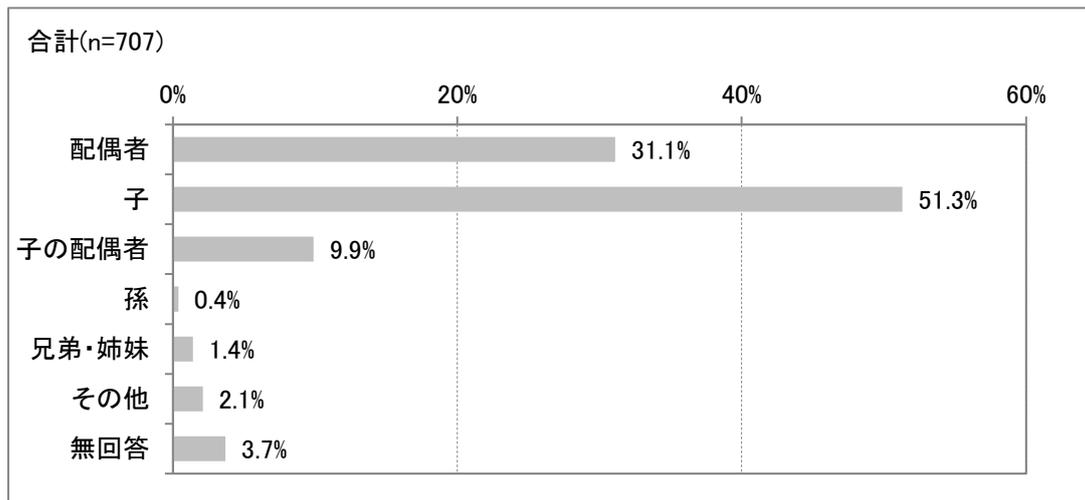


主な介護者について

【問2で「2」～「5」を選択した方（家族からの介護がある方）限定】

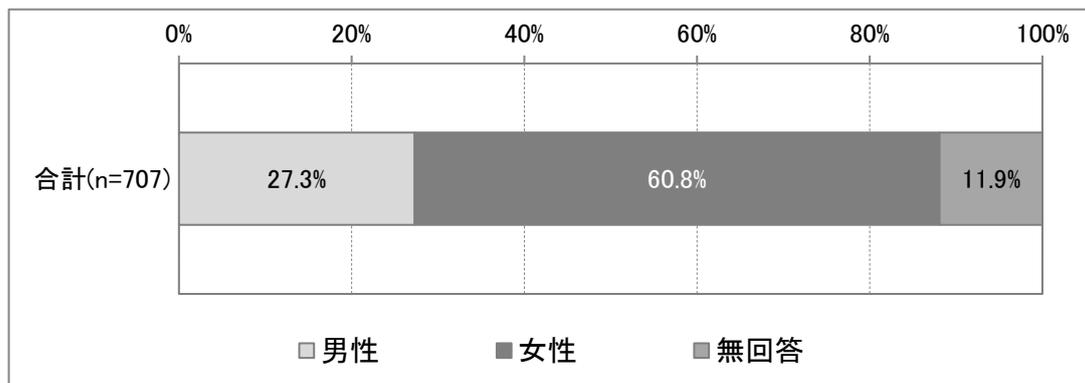
問3 主な介護者の本人との関係（SA）

○「子」の割合が最も高く51.3%，次いで、「配偶者」が31.1%，「子の配偶者」が9.9%となっています。



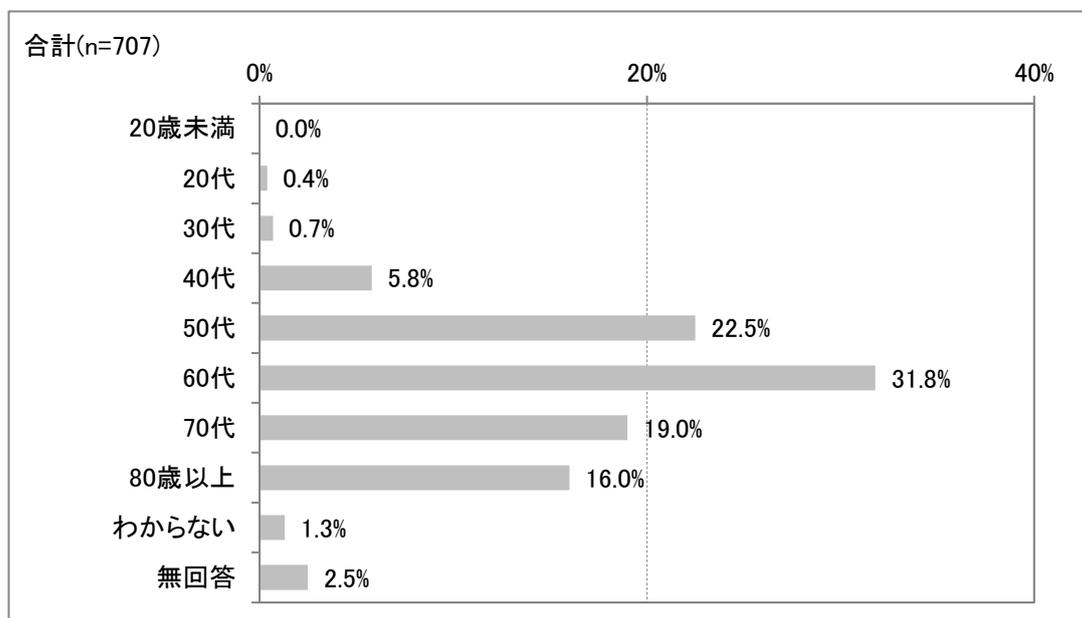
問4 主な介護者の性別（SA）

○「女性」が60.8%，「男性」が27.3%となっています。



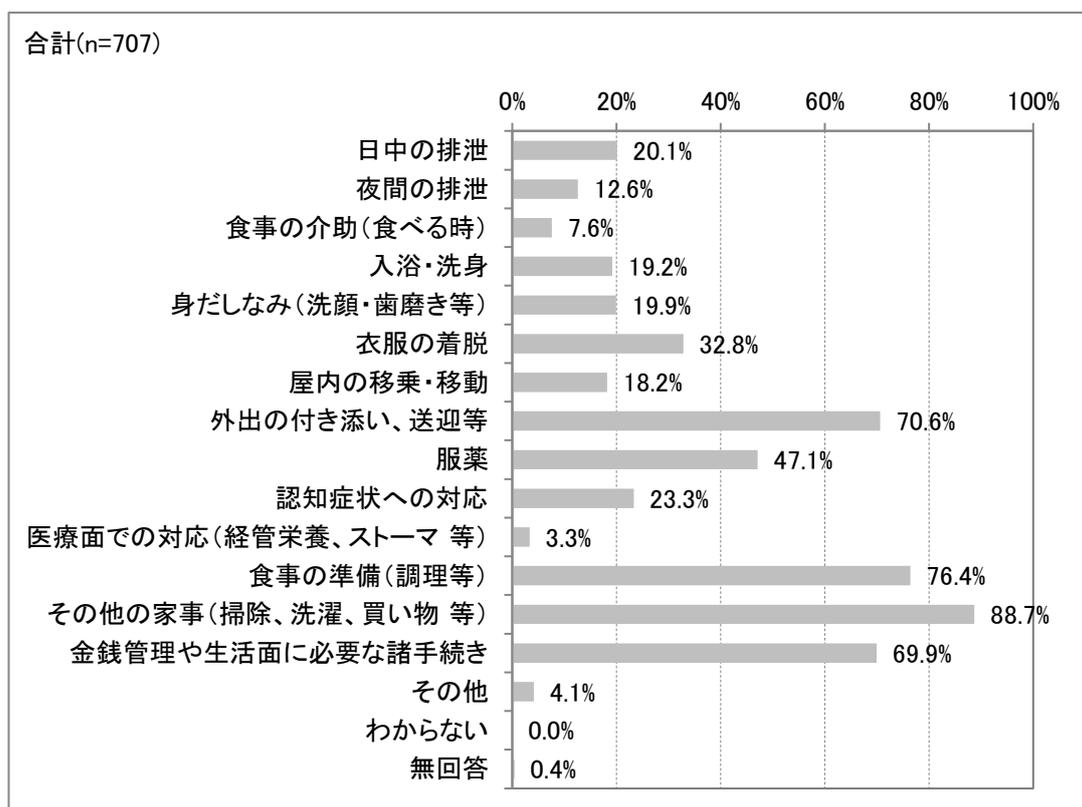
問5 主な介護者の年齢（SA）

○「60代」の割合が最も高く31.8%となっています。次いで、「50代」が22.5%、「70代」が19.0%となっています。



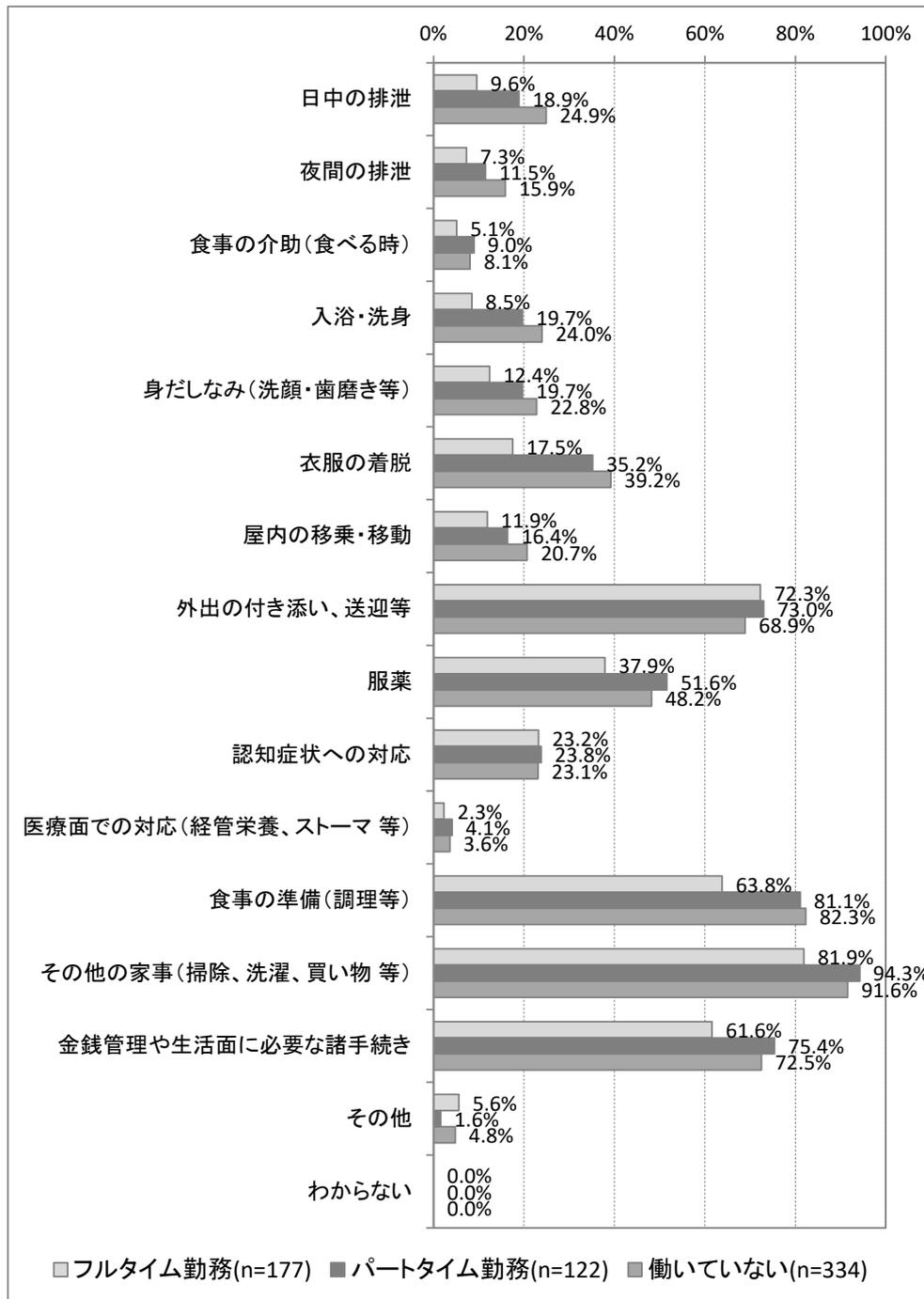
問6 主な介護者が行っている介護（MA）

○「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高く88.7%となっています。次いで、「食事の準備（調理等）」が76.4%、「外出の付き添い、送迎等」が70.6%となっています。



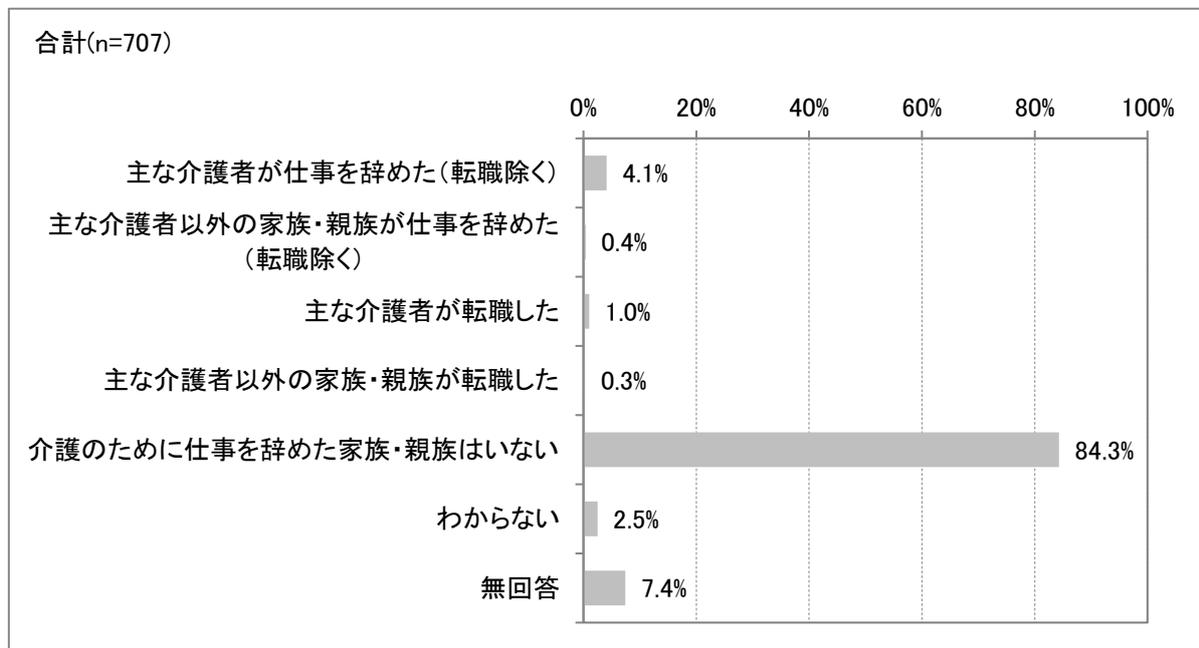
○介護者の勤務形態別にみると、すべての勤務形態で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も高くなっています。次いで、“フルタイム勤務”では「外出の付き添い、送迎等」が72.3% “パートタイム勤務”と“働いていない”では「食事の準備（調理等）」がそれぞれ81.1%、82.3% となっています。

【就労状況別・主な介護者が行っている介護】



問7 介護のための離職の有無（MA）

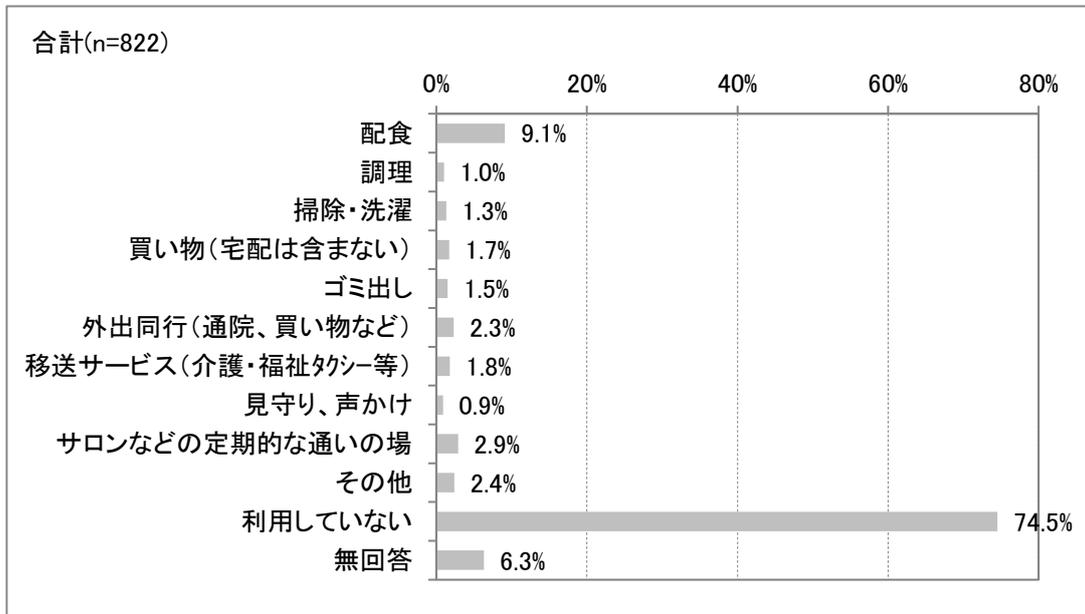
○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く84.3%となっています。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が4.1%、「わからない」が2.5%となっています。



生活支援サービスについて

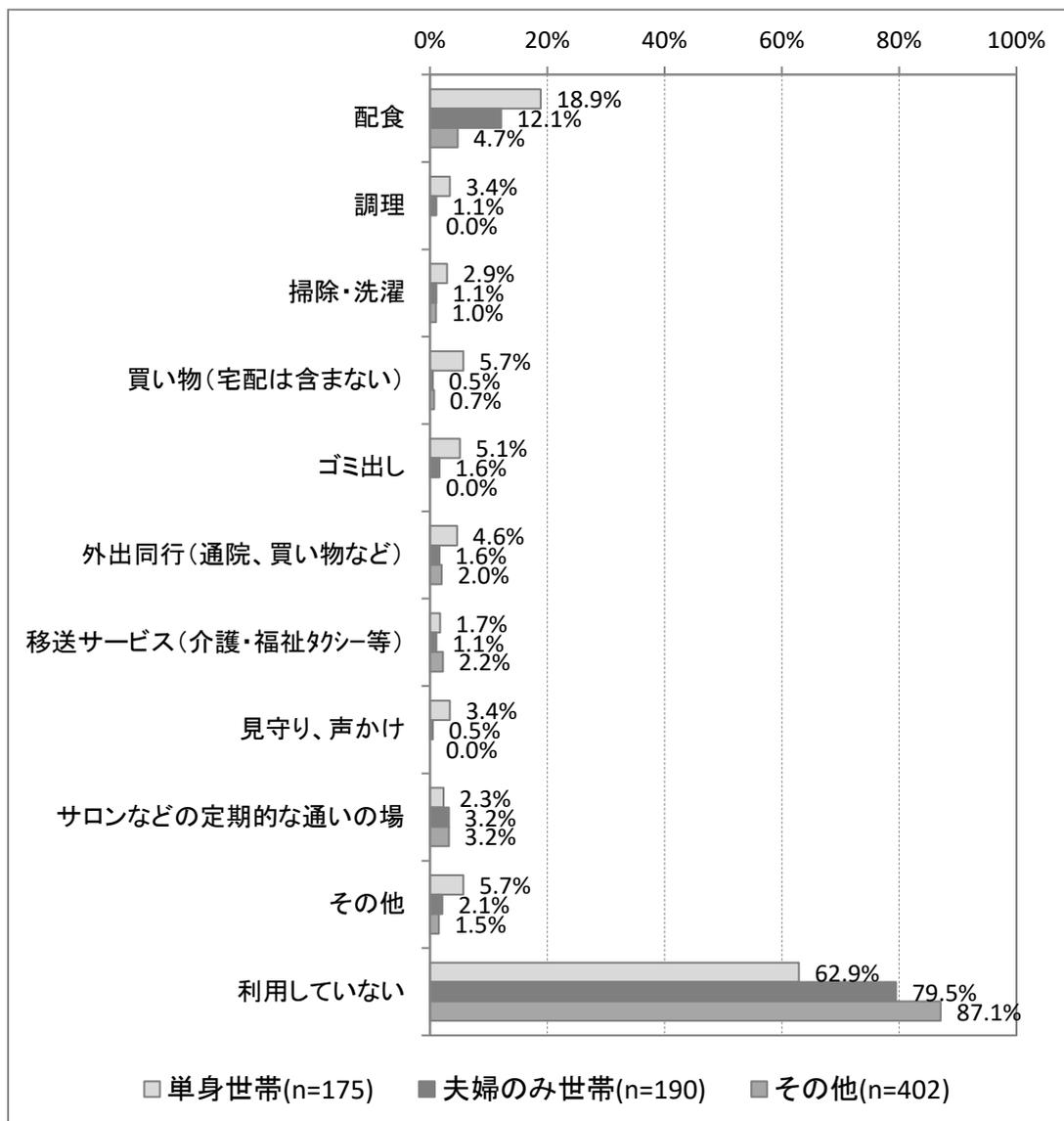
問8 保険外の支援・サービスの利用状況（MA）

○「利用していない」の割合が最も高く74.5%となっています。次いで、「配食」が9.1%、「サロンなどの定期的な通いの場」が2.9%となっています。



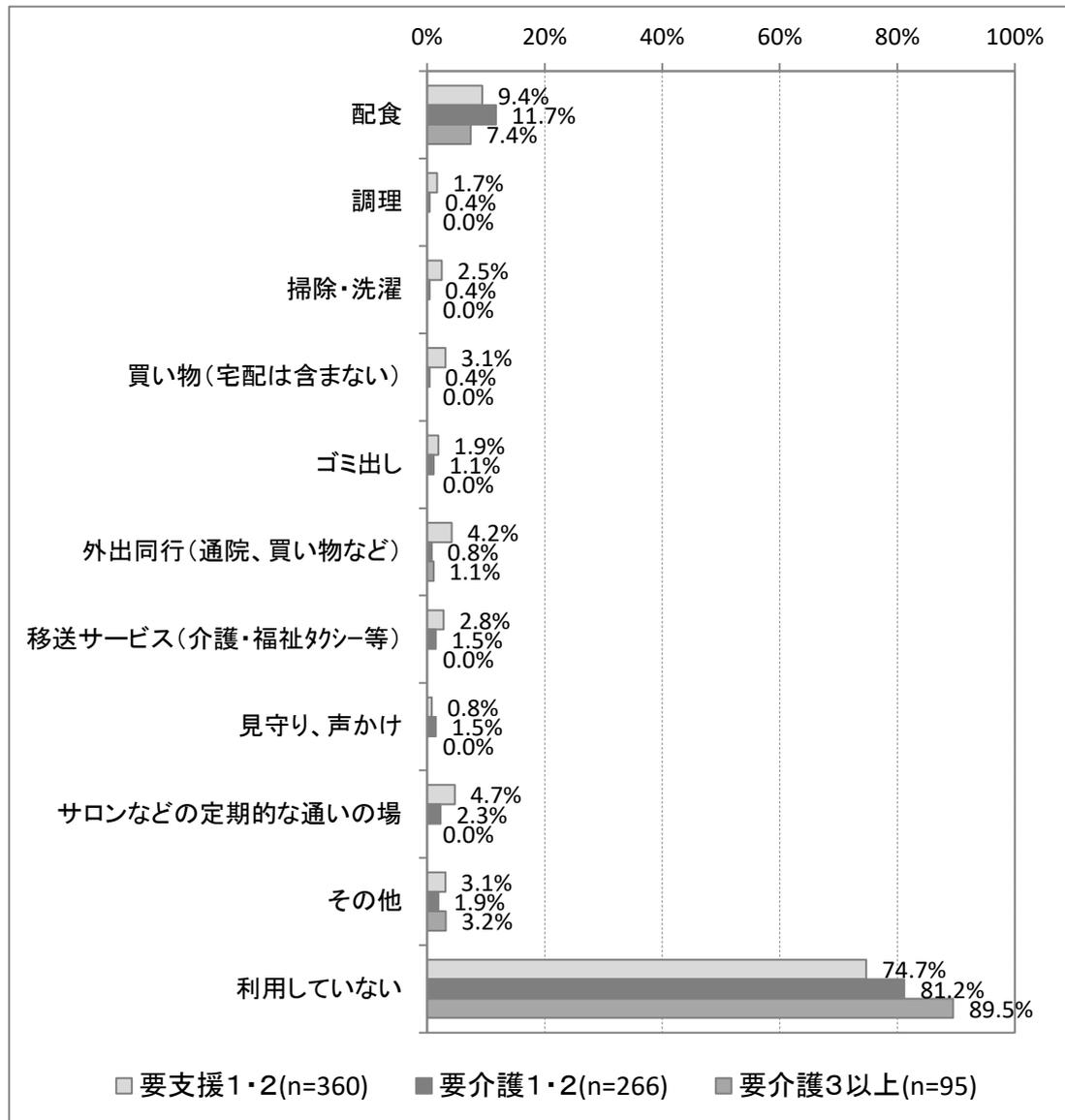
○世帯類型別に利用しているサービスをみると、すべての世帯類型で「配食」が最も高くなっています。

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】



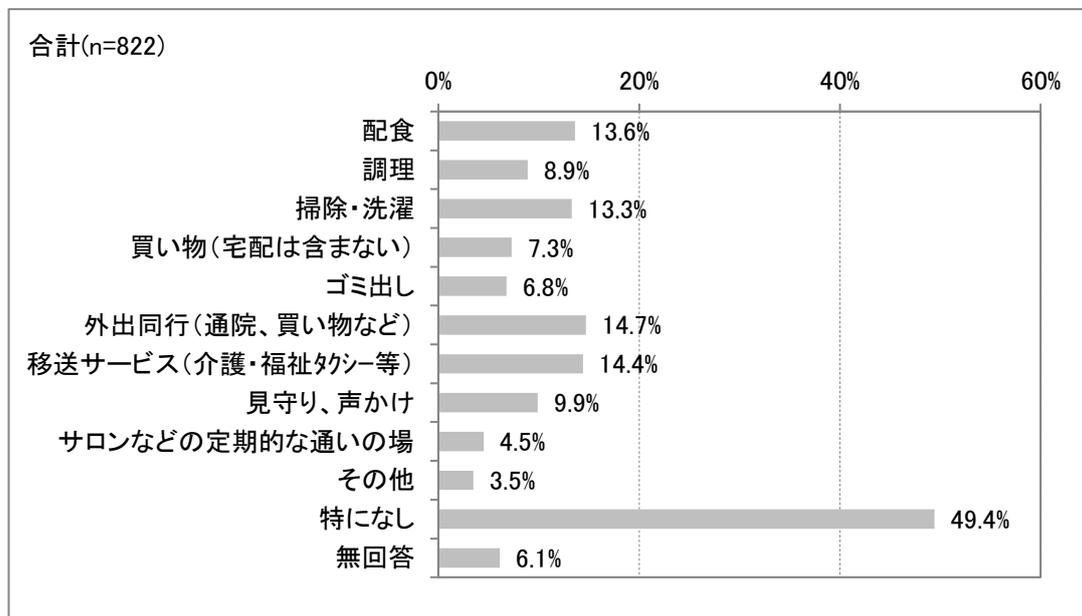
○要介護度別に利用しているサービスを見ると、すべての要介護度で「配食」が最も高くなっています。

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】



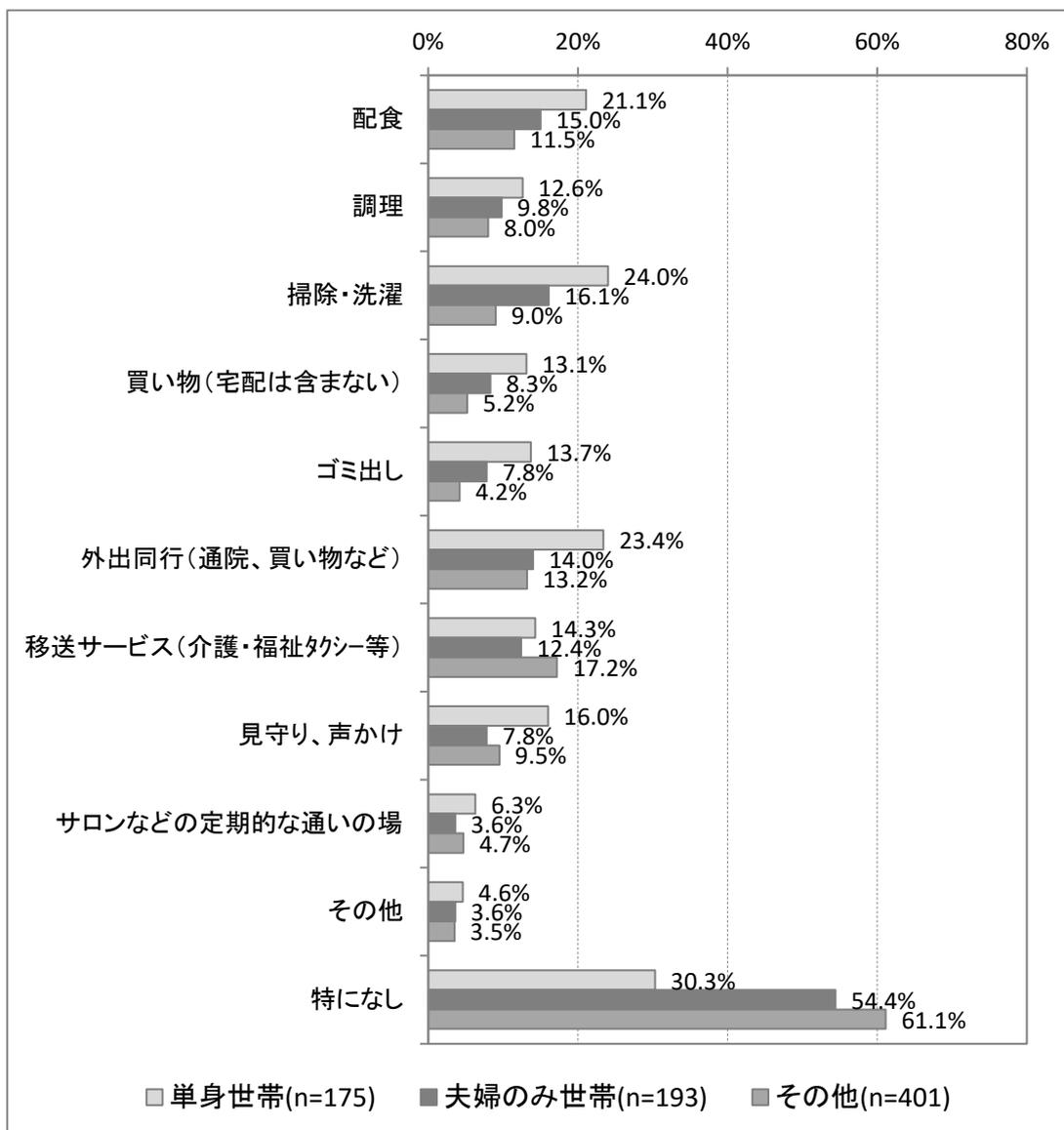
問9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（MA）

- 「特になし」の割合が最も高く49.4%、次いで、「外出同行（通院、買い物など）」が14.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.4%となっています。



- 世帯類型別にみると、すべての世帯類型で「特になし」が最も高く、“単身世帯”では30.3%，“夫婦のみ世帯”では54.4%，“その他”では61.1%となっています。
- 必要なサービスとしては、“単身世帯”と“夫婦のみ世帯”では「掃除・洗濯」がそれぞれ24.0%、16.1%，“その他”では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が17.2%と高くなっています。
- 全体的に“単身世帯”の利用意向が高くなっています。

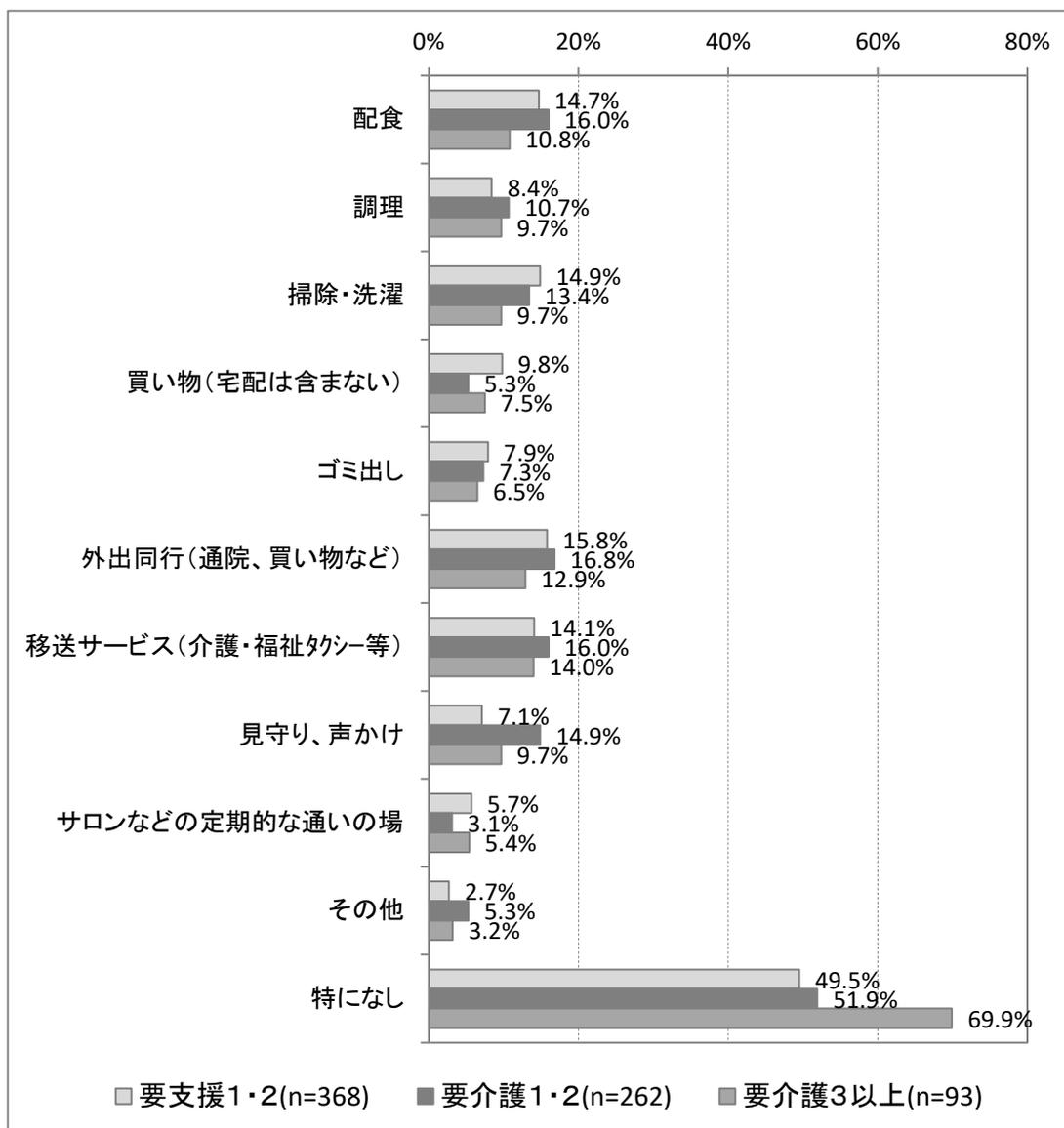
【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



○要介護度別にみると、すべての要介護度で「特になし」が最も高く、重度になるほどその割合も高くなっています。

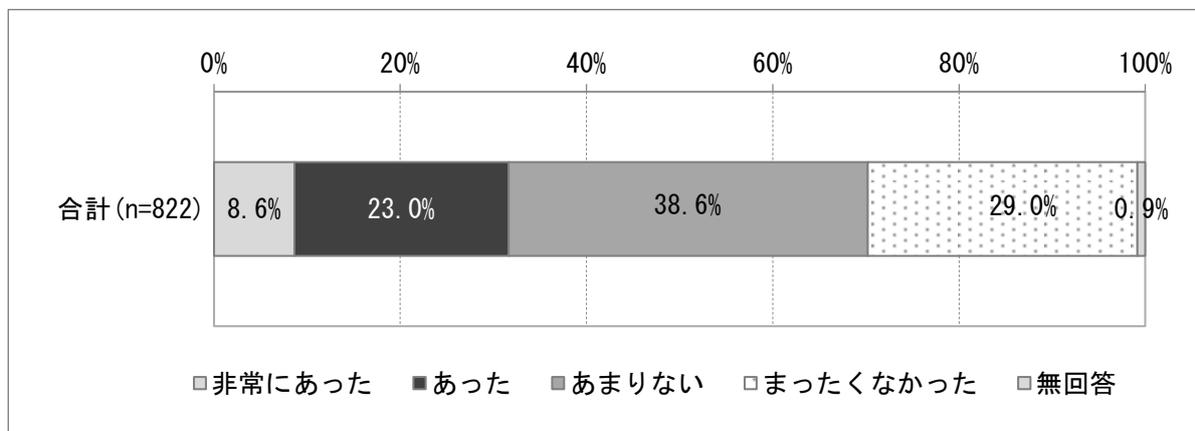
○必要なサービスとしては、「外出同行（通院、買い物など）」が“要支援1・2”では15.8%，“要介護1・2”では16.8%が高く，“要介護3以上”では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.0%となっています。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



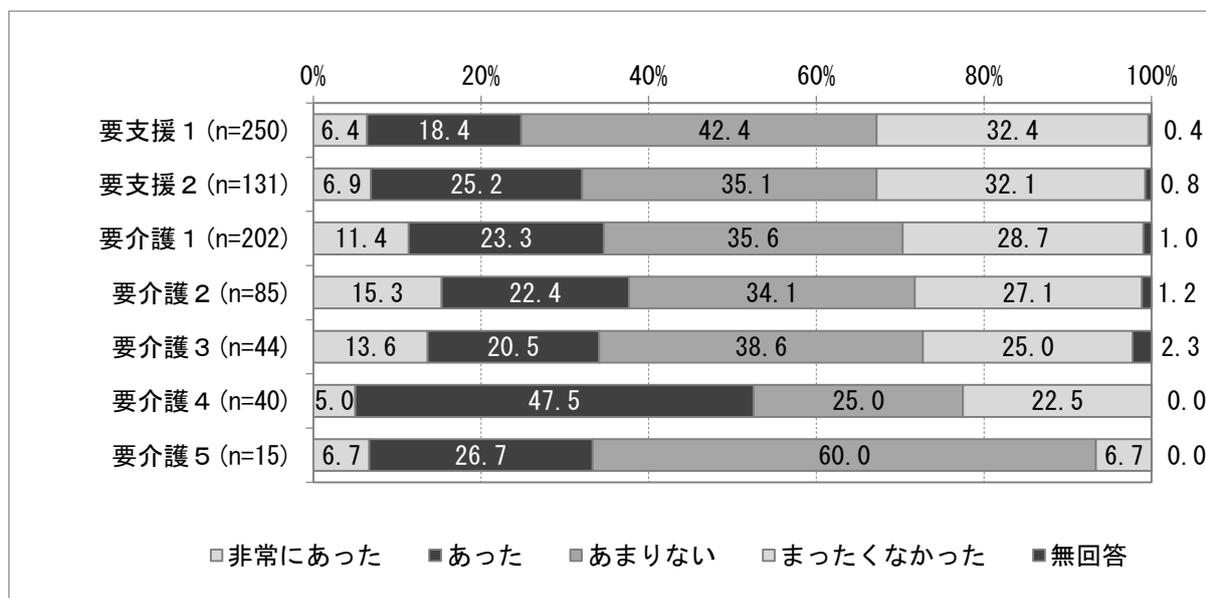
問10 新型コロナウイルス感染症による精神的・身体的な衰えなどの変化（SA）

- 「あまりない」の割合が最も高く38.6%，次いで、「まったくなかった」が29.0%，「あった」が23.0%となっています。
- 「非常にあった」と「あった」を合わせた『あった』は31.6%となっています。



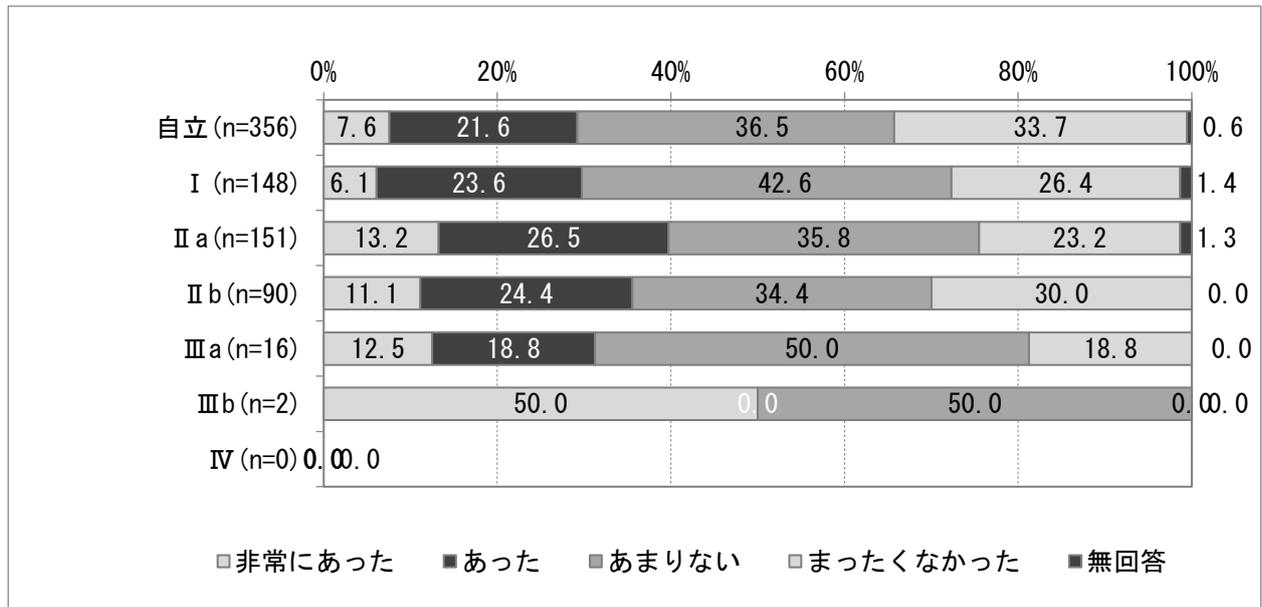
- 要介護度別にみると、『あった』は“要介護4”で52.5%と高く，“要支援1”で24.8%と低くなっています。

【要介護度別・新型コロナウイルス感染症による変化】



○認知症自立度別にみると、『あった』は“Ⅱa”で39.7%と高くなっています。

【認知症自立度別・新型コロナウイルス感染症による変化】

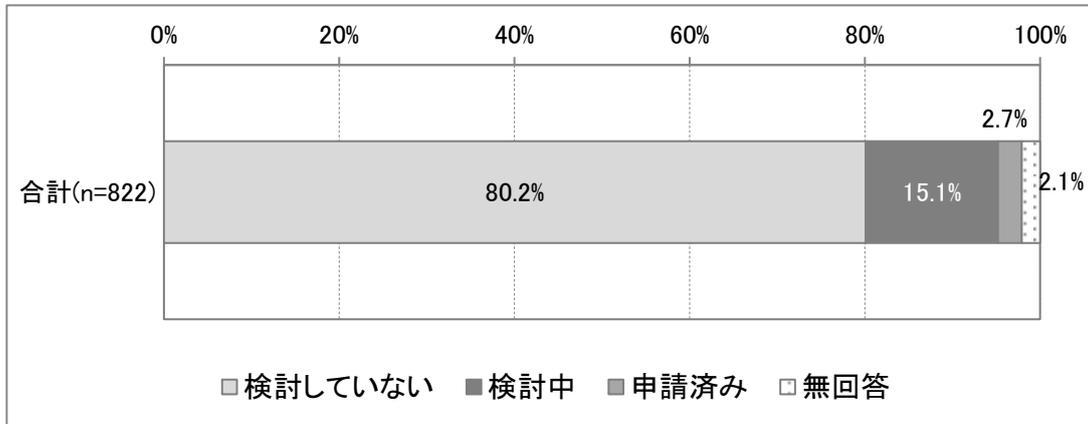


※P 4 3 「認知症高齢者の日常生活自立度の判断基準」参照

介護保険の利用について

問11 施設等検討の状況（SA）

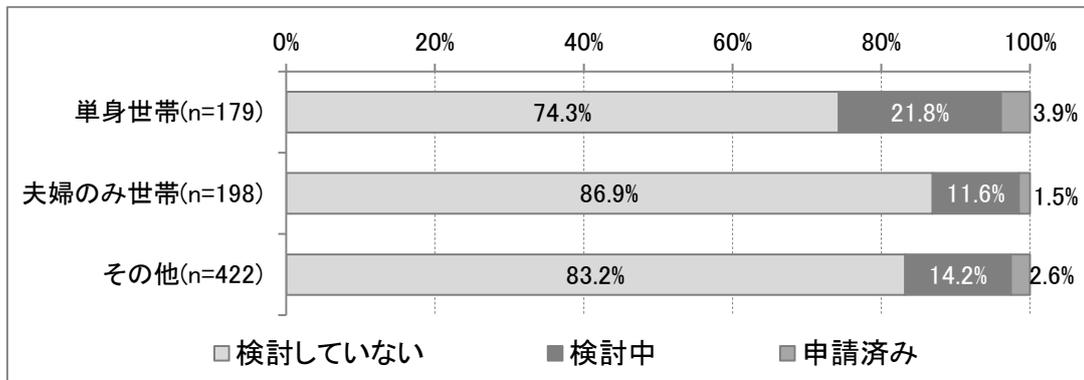
○「検討していない」の割合が最も高く80.2%，次いで、「検討中」が15.1%，「申請済み」が2.7%となっています。



○世帯類型別にみると、「検討中」は“単身世帯”では21.8%，“夫婦のみ世帯”では11.6%，“その他”では14.2%となっており，“単身世帯”で高くなっています。

○「申請済み」についても，“単身世帯”“その他”“夫婦のみ世帯”の順に高くなっています。

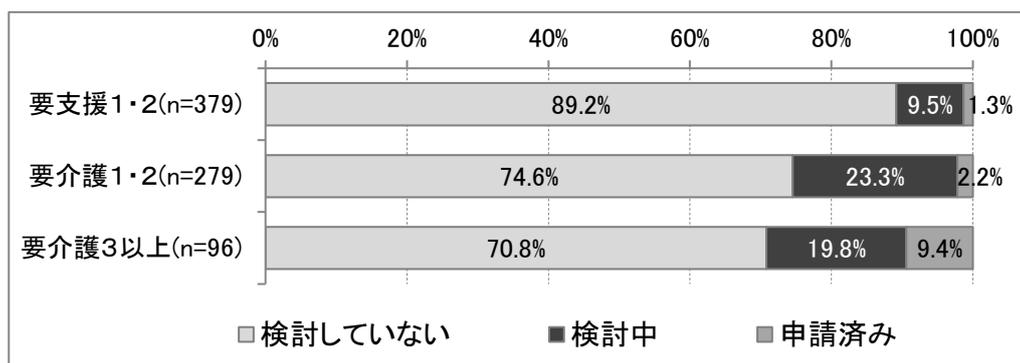
【世帯類型別・施設等検討の状況】



○要介護度別にみると、「検討中」は“要支援1・2”では9.5%，“要介護1・2”では23.3%，“要介護3以上”では19.8%となっており，“要介護1・2”で高くなっています。

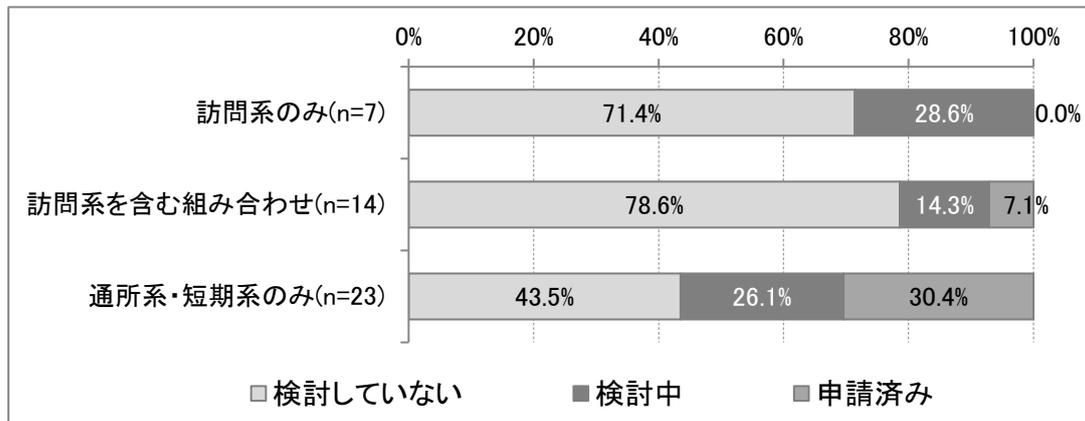
○「申請済み」は，“要介護3以上”“要介護1・2”“要支援1・2”の順に高くなっています。

【要介護度別・施設等検討の状況】



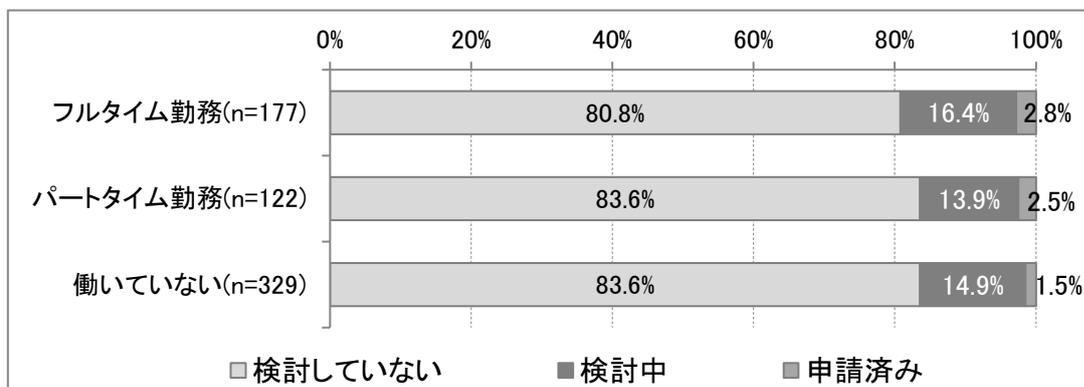
- 要介護3以上のサービス利用の組み合わせ別にみると、すべての組み合わせで「検討していない」が最も高くなっています。
- 次いで「検討中」は、“訪問系のみ”が28.6%で高く、「申請済み」は”通所系・短期系のみ”で30.4%と高くなっています。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】



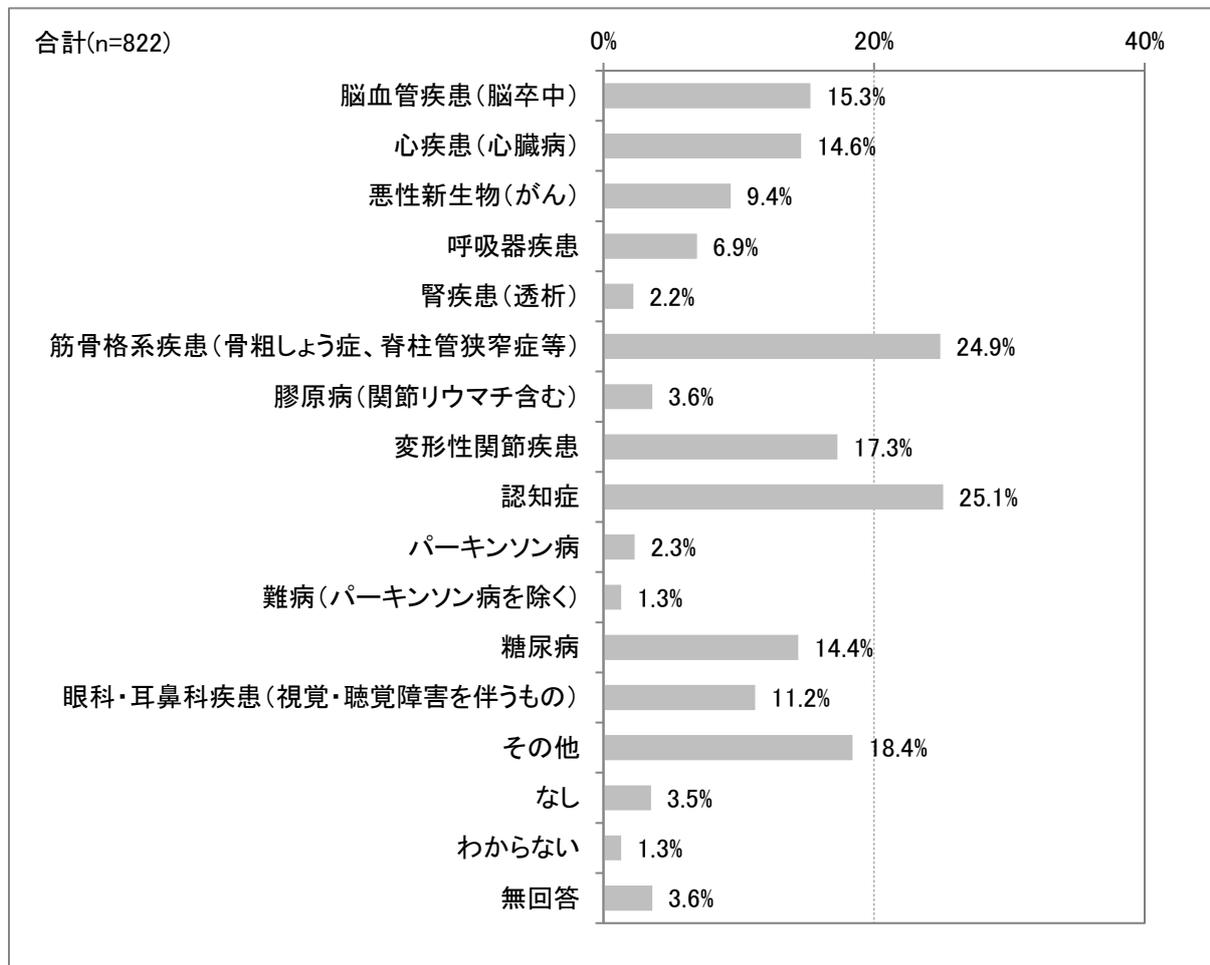
- 介護者の勤務形態別にみると、すべての就労形態で「検討していない」が最も高く、“フルタイム勤務”では80.8%，“パートタイム勤務”と“働いていない”では83.6%となっており、大きな差異はみられません。

【就労状況別・施設等検討の状況】



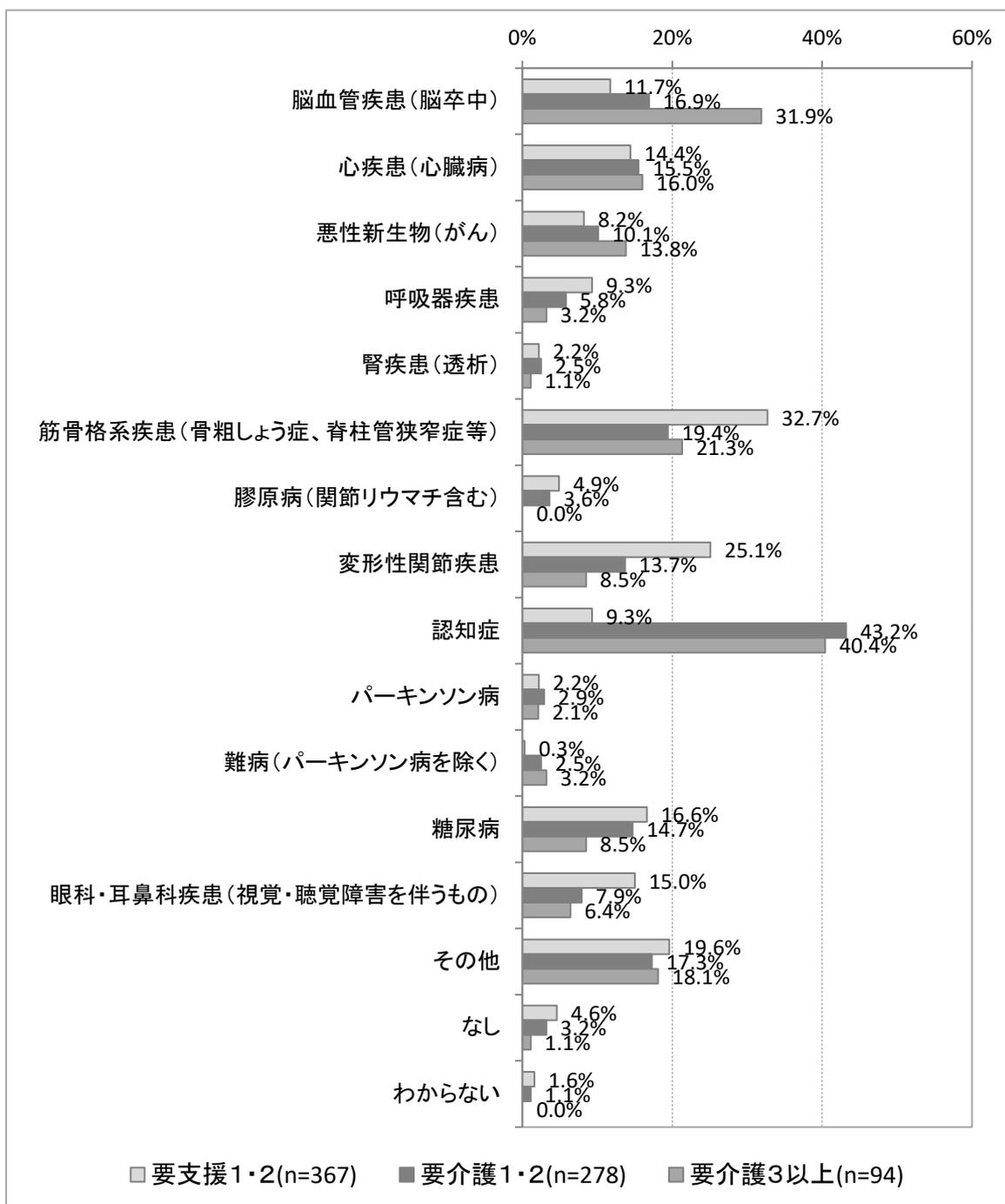
問12 本人が抱えている傷病（MA）

- 「認知症」の割合が最も高く25.1%、次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が24.9%、「その他」が18.4%となっています。
- その他は、高血圧、高血圧症が多くみられます。



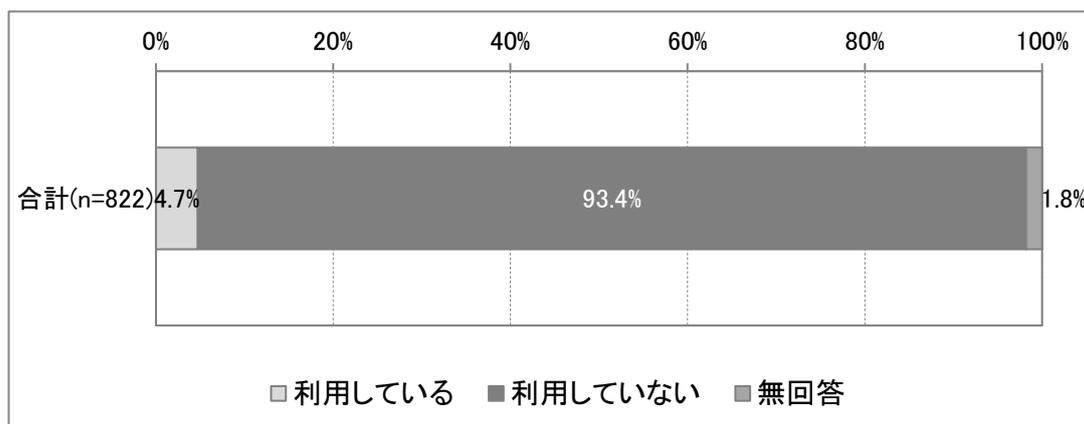
- 要介護度別にみると，“要支援1・2”では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等）」が32.7%ともっとも割合が高く，次いで「変形性関節疾患」が25.1%，「その他」が19.6%となっています。
- “要介護1・2”では「認知症」が43.2%ともっとも割合が高く，次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等）」が19.4%，「その他」が17.3%となっています。
- “要介護3以上”では「認知症」が40.4%ともっとも割合が高く，次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が31.9%，「筋骨格系疾患（骨粗しょう症，脊柱管狭窄症等）」が21.3%となっています。

【要介護度別・抱えている傷病】



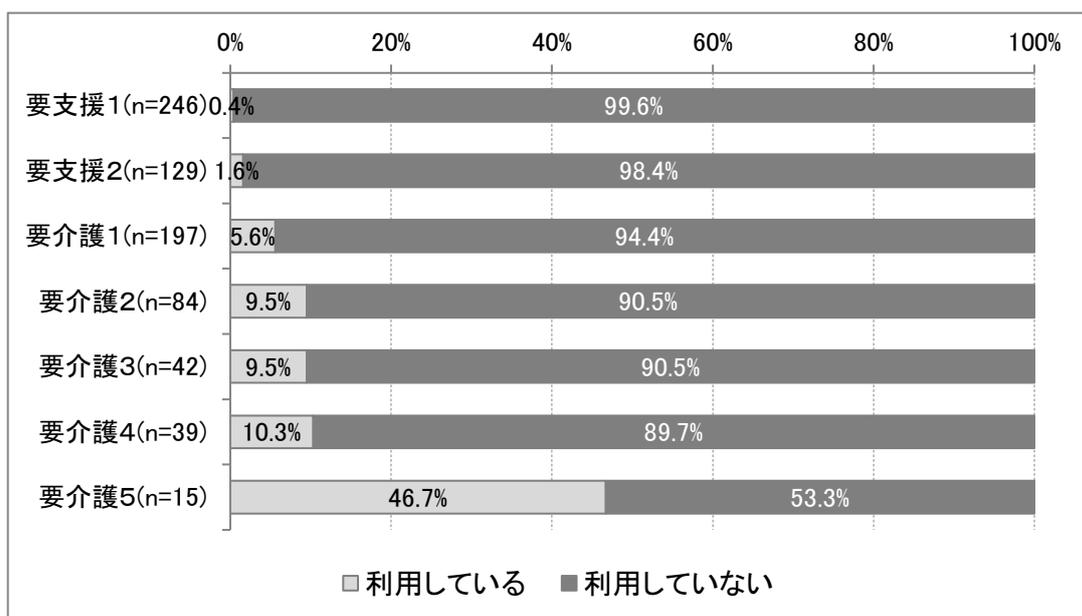
問13 訪問診療の利用の有無（S A）

○「利用していない」が93.4%、「利用している」が4.7%となっています。



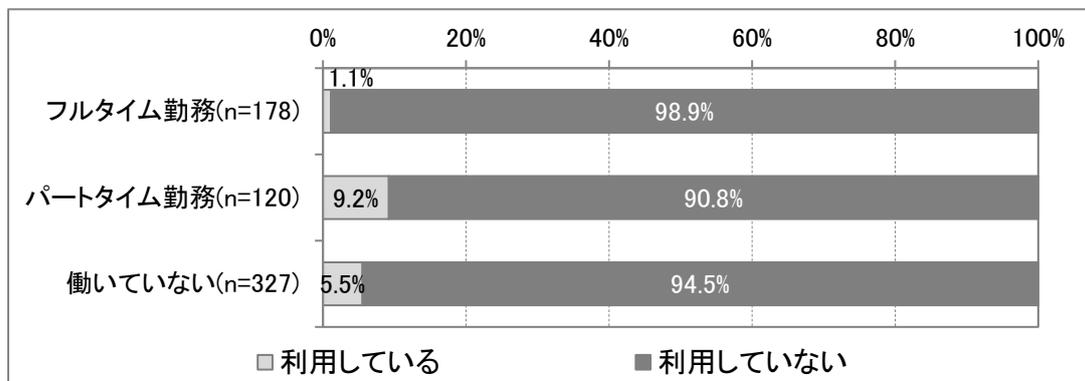
○要介護度別にみると、「利用している」は、“要介護5”の46.7%が最も高く、“要支援1”の0.4%が最も低くなっています。要介護度が重度になるほど、利用割合が高くなっています。

【要介護度別・訪問診療の利用割合】



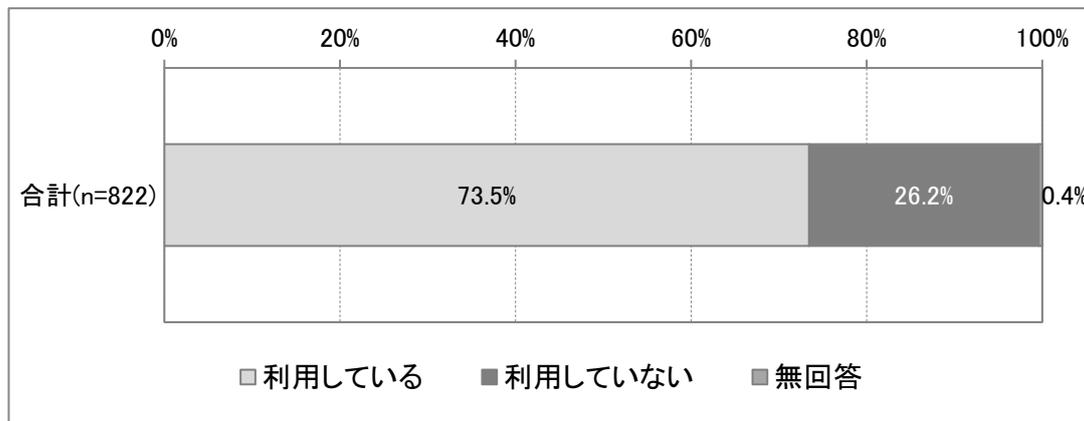
○介護者の勤務形態別にみると、「利用している」は“フルタイム勤務”では1.1%，“パートタイム勤務”では9.2%，“働いていない”では5.5%となっています。

【就労状況別・訪問診療の利用の有無】



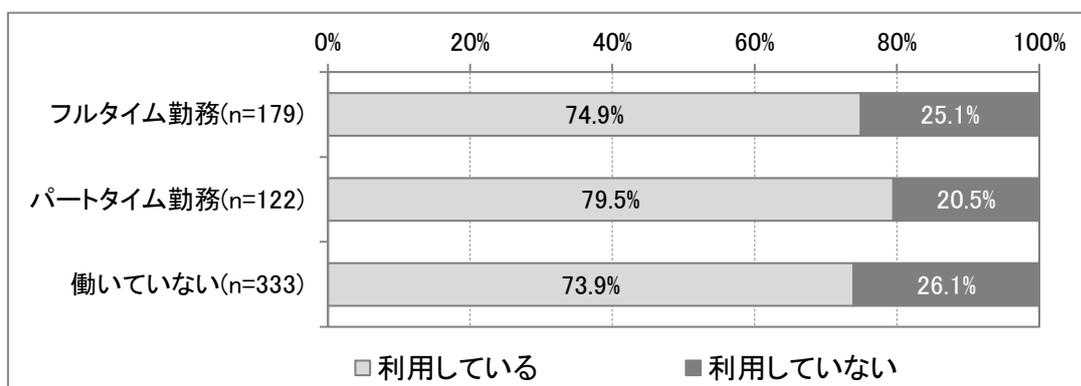
問14 (住宅改修, 福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスの利用の有無 (S A)

○「利用している」が73.5%、「利用していない」が26.2%となっています。



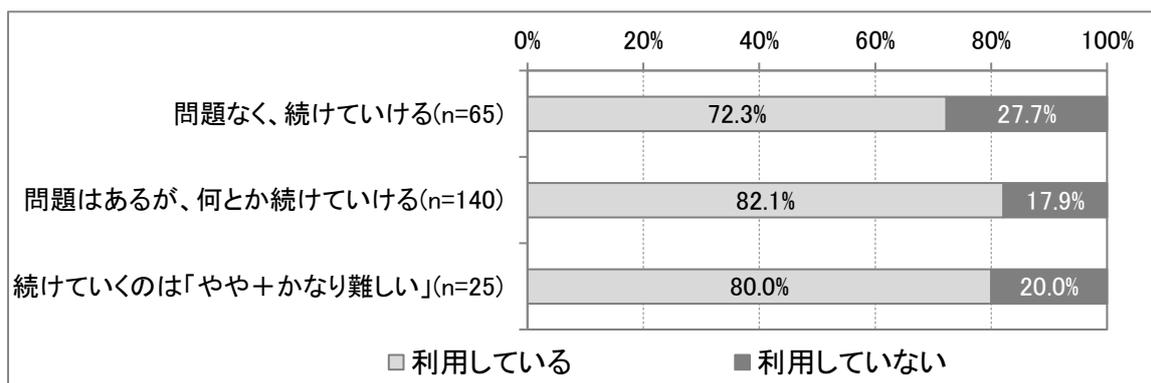
○介護者の勤務形態別にみると、「利用している」は“フルタイム勤務”では74.9%，“パートタイム勤務”では79.5%，“働いていない”では73.9%となっており，“パートタイム勤務”が最も高くなっています。

【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】



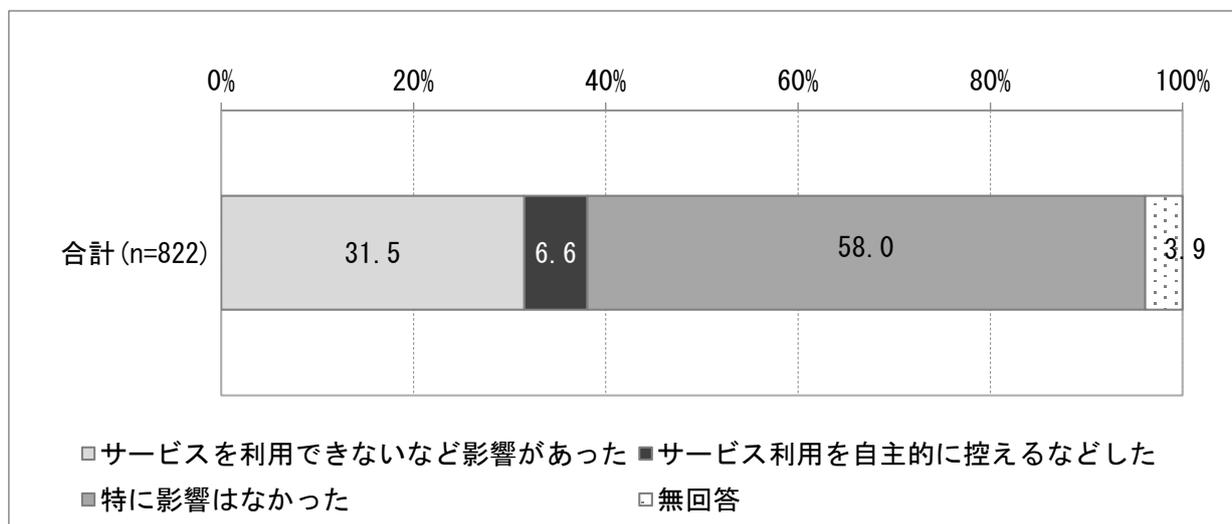
○介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「利用している」は，“問題なく、続けていける”では72.3%，“問題はあるが、何とか続けていける”では82.1%，“続けていくのは「やや+かなり難しい」”では80.0%となっています。

【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無 (フルタイム勤務+パートタイム勤務)】



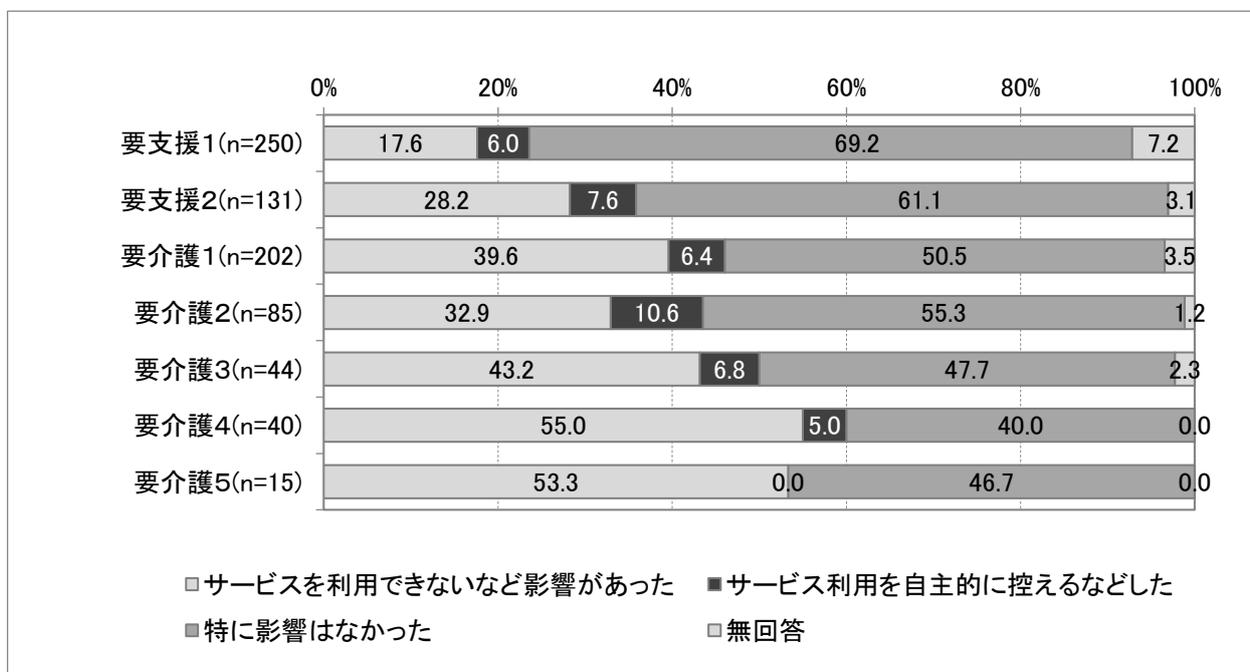
問15 新型コロナ感染症の流行による介護保険サービスの利用への影響（S A）

- 「特に影響はなかった」の割合が最も高く58.0%，次いで、「サービスを利用できないなど影響があった」が31.5%，「サービス利用を自主的に控えるなどした」が6.6%となっています。
- 「サービスを利用できないなど影響があった」と「サービス利用を自主的に控えるなどした」を合わせた『影響があった』は38.1%となっています。



- 要介護度別にみると、『影響があった』は“要介護4”の60.0%が最も高く、要介護3以上では過半数となっています。

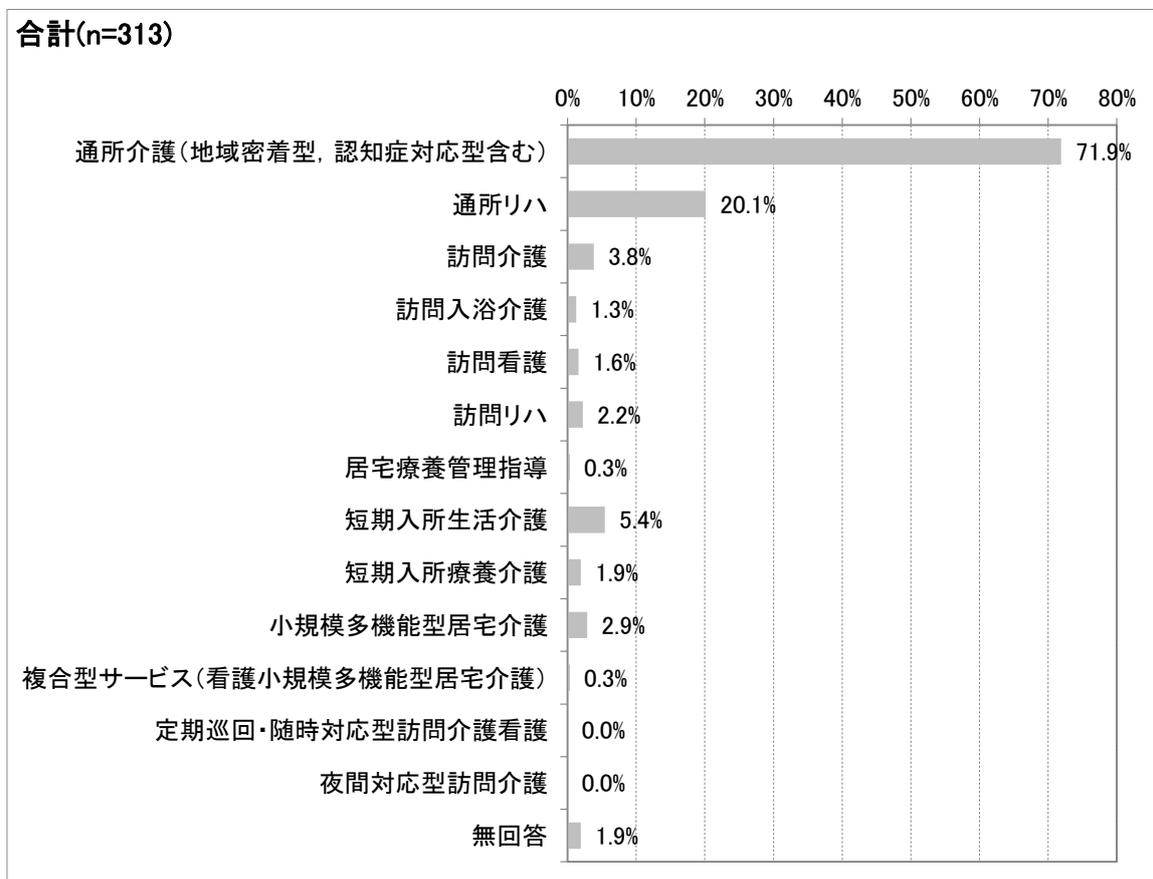
【要介護度別・介護保険サービス利用の有無】



問16 利用に影響があったサービスおよび自主的に控えたサービス（MA）

【問15で『影響があった』を選択した方限定】

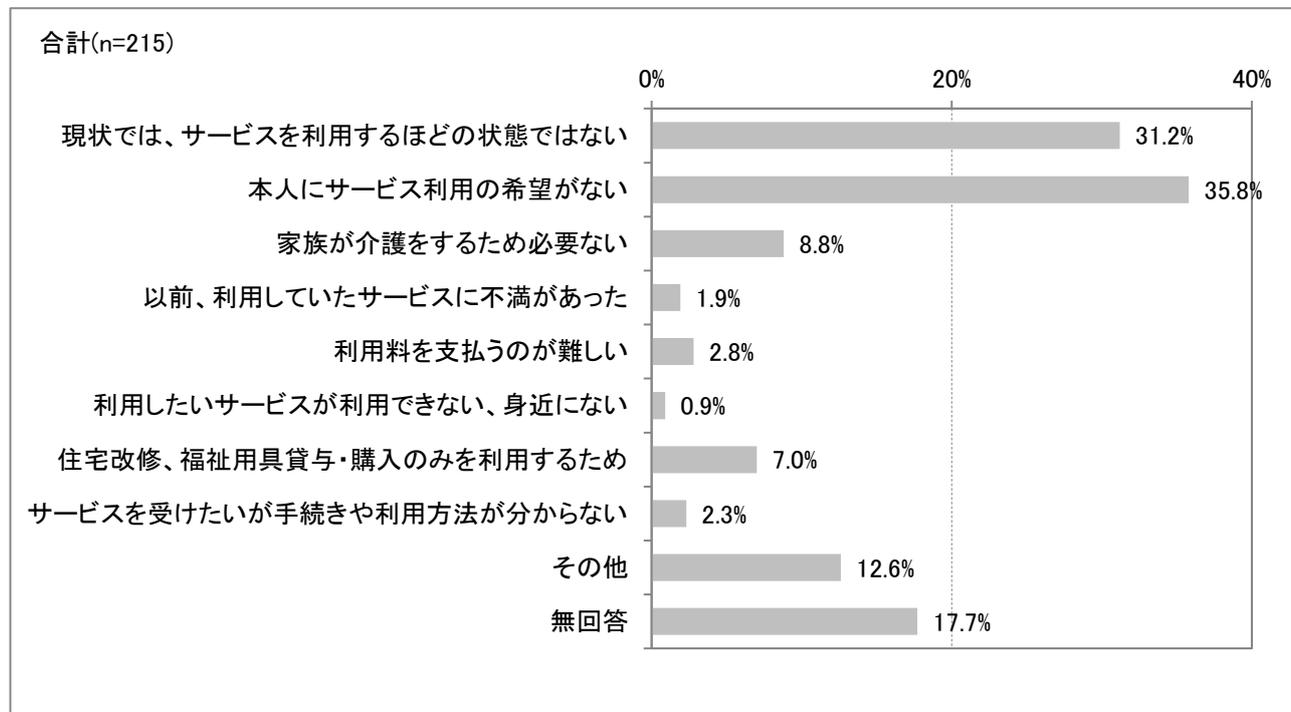
○「通所介護（地域密着型，認知症対応型含む）」が71.9%と最も高く，次いで，「通所リハ」が20.1%，「短期入所生活介護」が5.4%となっています。



問 17 介護保険サービス未利用の理由（MA）

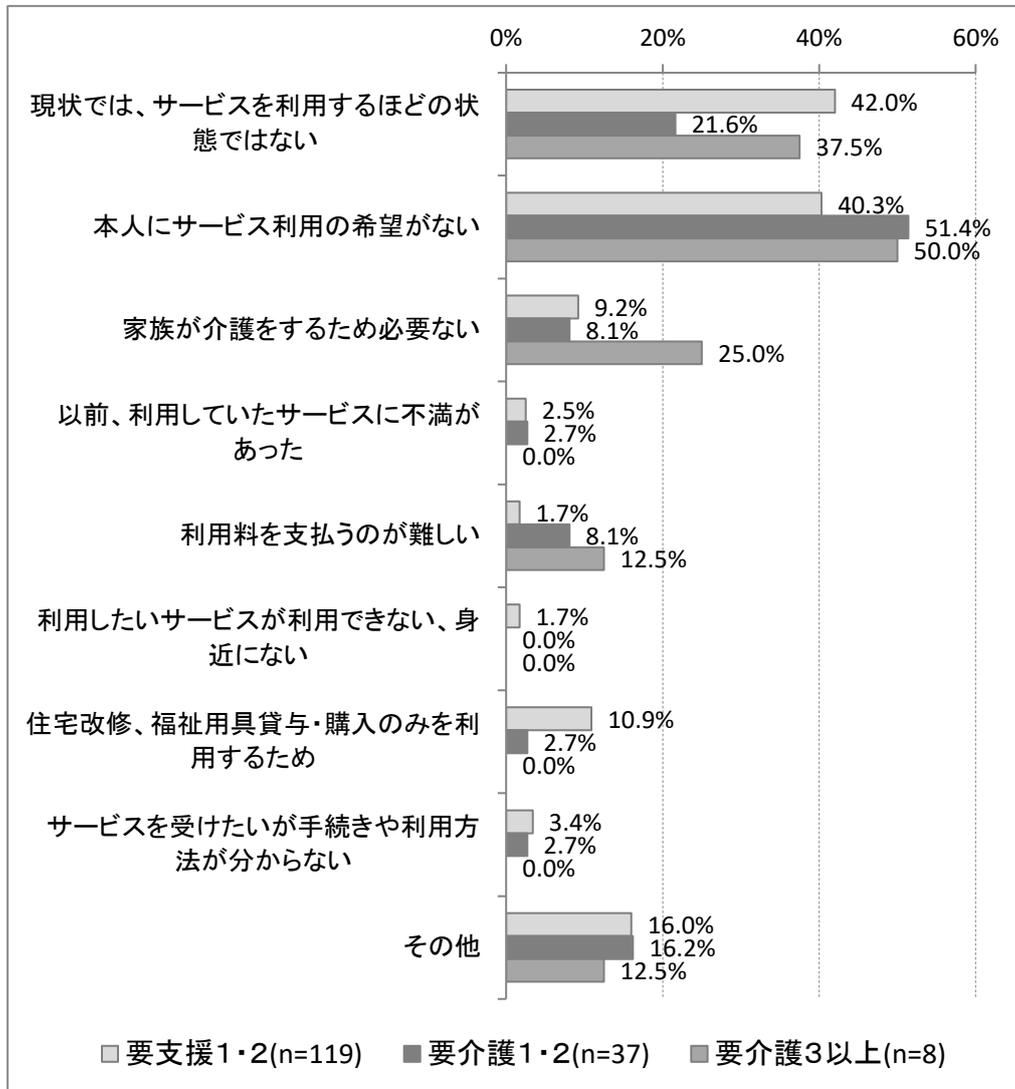
【問14で「利用していない」を選択した方限定】

○「本人にサービス利用の希望がない」の割合が最も高く35.8%、次いで、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が31.2%、「その他」が12.6%となっています。



○要介護度別にみると，“要支援1・2”では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.0%ともっとも割合が高く，“要介護1・2”と“要介護3以上”では「本人にサービス利用の希望がない」がそれぞれ51.4%、50.0%ともっとも割合が高くなっています。

【要介護度別のサービス未利用の理由】



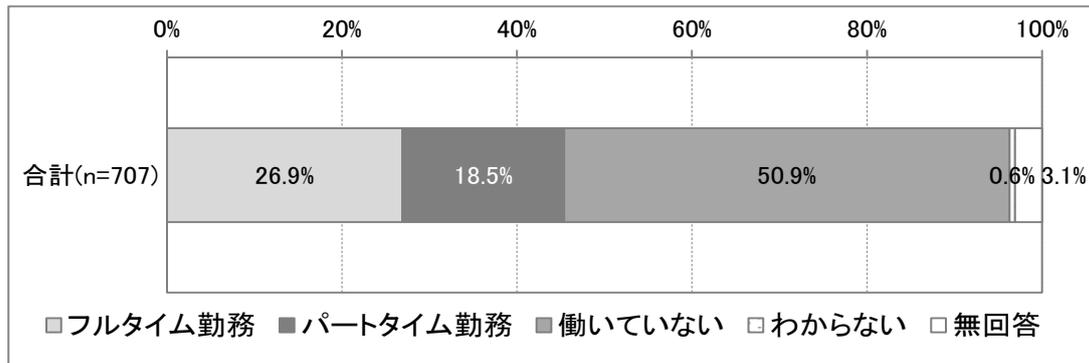
B票

【A票 問2 家族等による介護の頻度が「ある」さらに「主な介護者」が同席している方限定】

主な介護者のお仕事

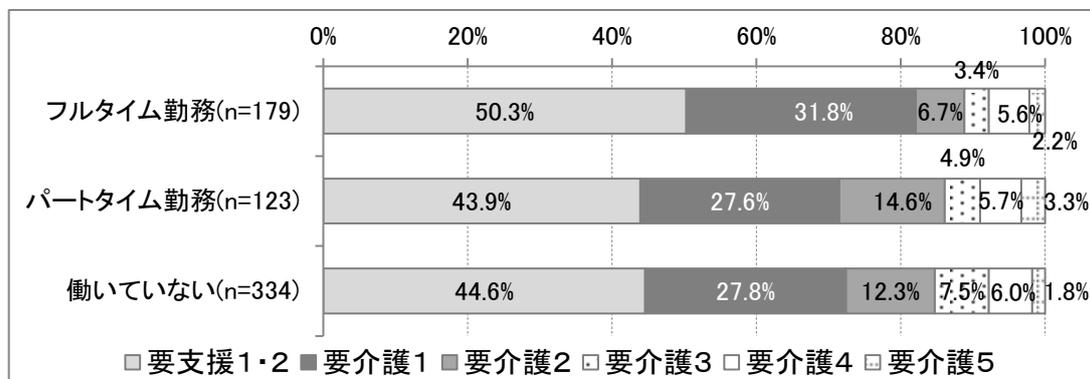
問1 主な介護者の勤務形態（SA）

○「働いていない」の割合が最も高く50.9%、次いで、「フルタイム勤務」が26.9%、「パートタイム勤務」が18.5%となっています。



○介護者の勤務形態別に要介護度をみると、「フルタイム勤務」では“要支援1・2”が50.3%、「パートタイム勤務」では“要支援1・2”が43.9%、「働いていない」では“要支援1・2”が44.6%となっています。

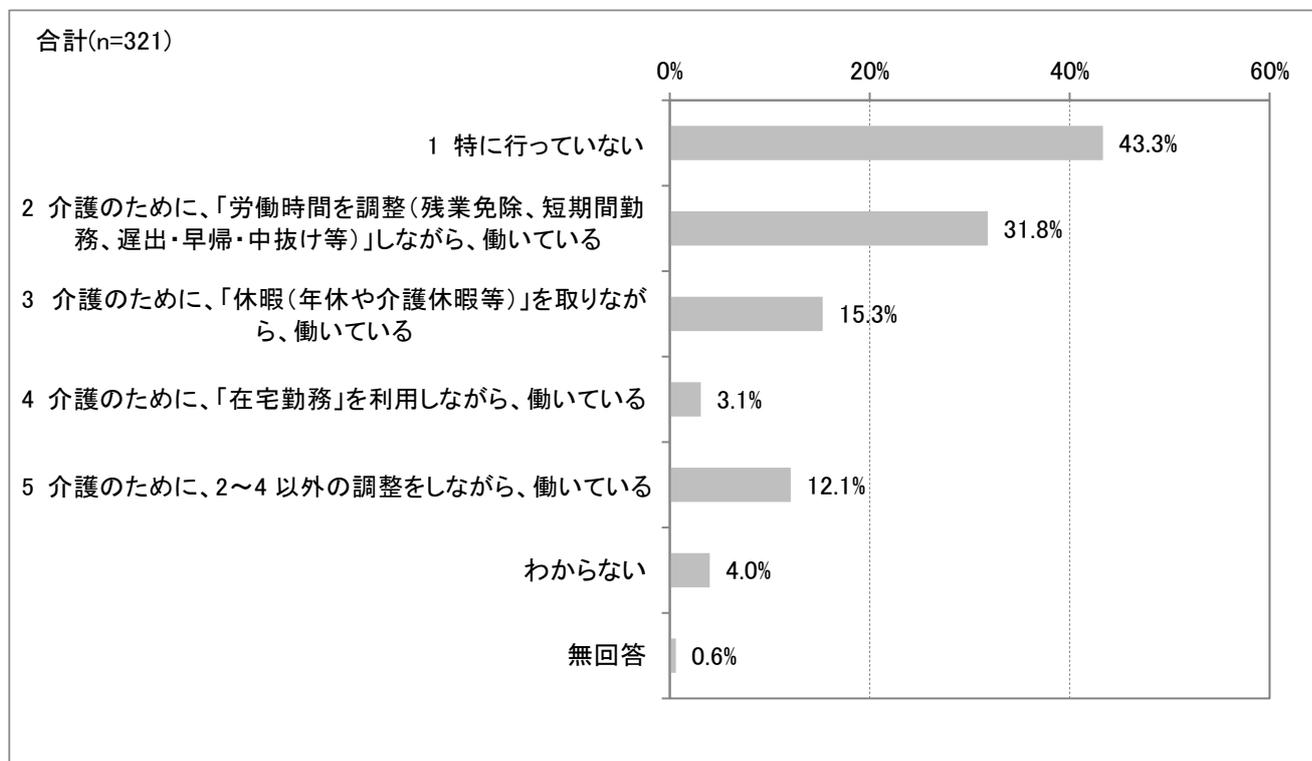
【就労状況別・要介護度】



問2 主な介護者の方の働き方の調整の状況（MA）

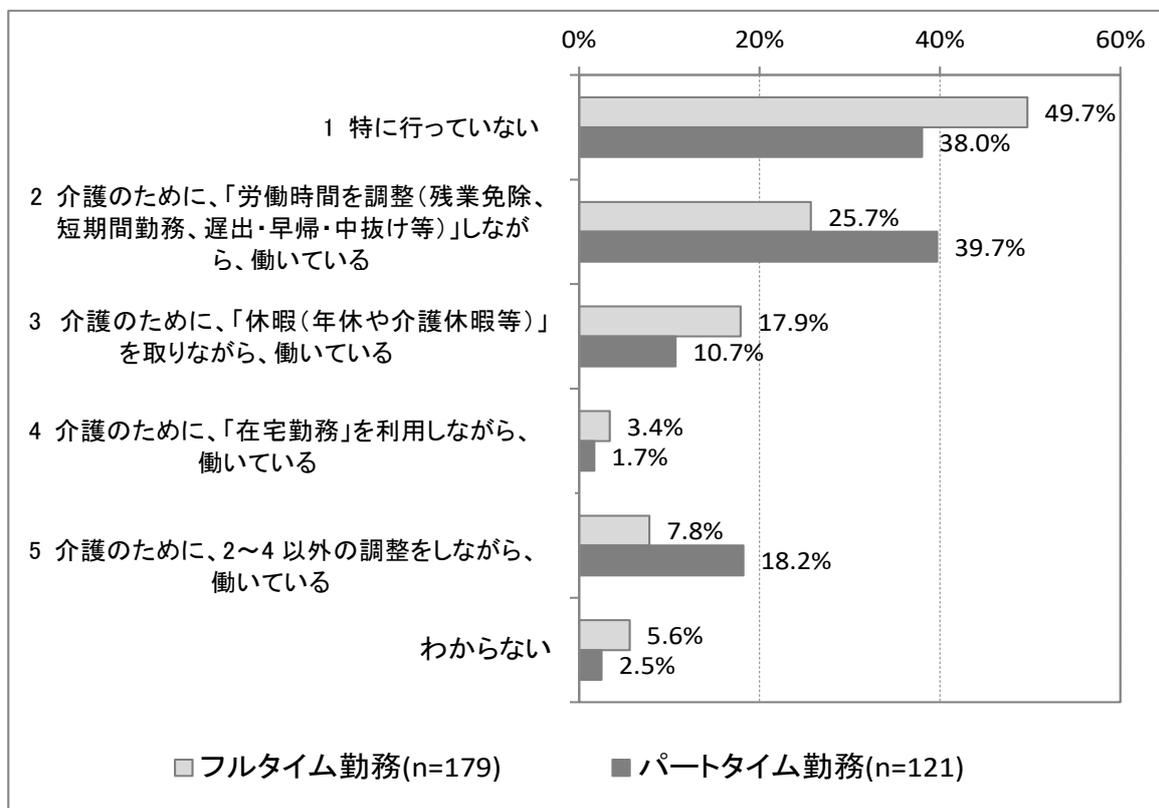
【問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」方限定】

○「特に行っていない」の割合が最も高く43.3%、次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が31.8%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が15.3%となっています。



○介護者の勤務形態別にみると，“フルタイム勤務”では「特に行っていない」が49.7%ともっとも割合が高く，次いで「介護のために，「労働時間を調整（残業免除，短時間勤務，遅出・早帰・中抜け等）」しながら，働いている」が25.7%，“パートタイム勤務”では「介護のために，「労働時間を調整（残業免除，短時間勤務，遅出・早帰・中抜け等）」しながら，働いている」が39.7%ともっとも割合が高く，次いで「特に行っていない」が38.0%となっています。

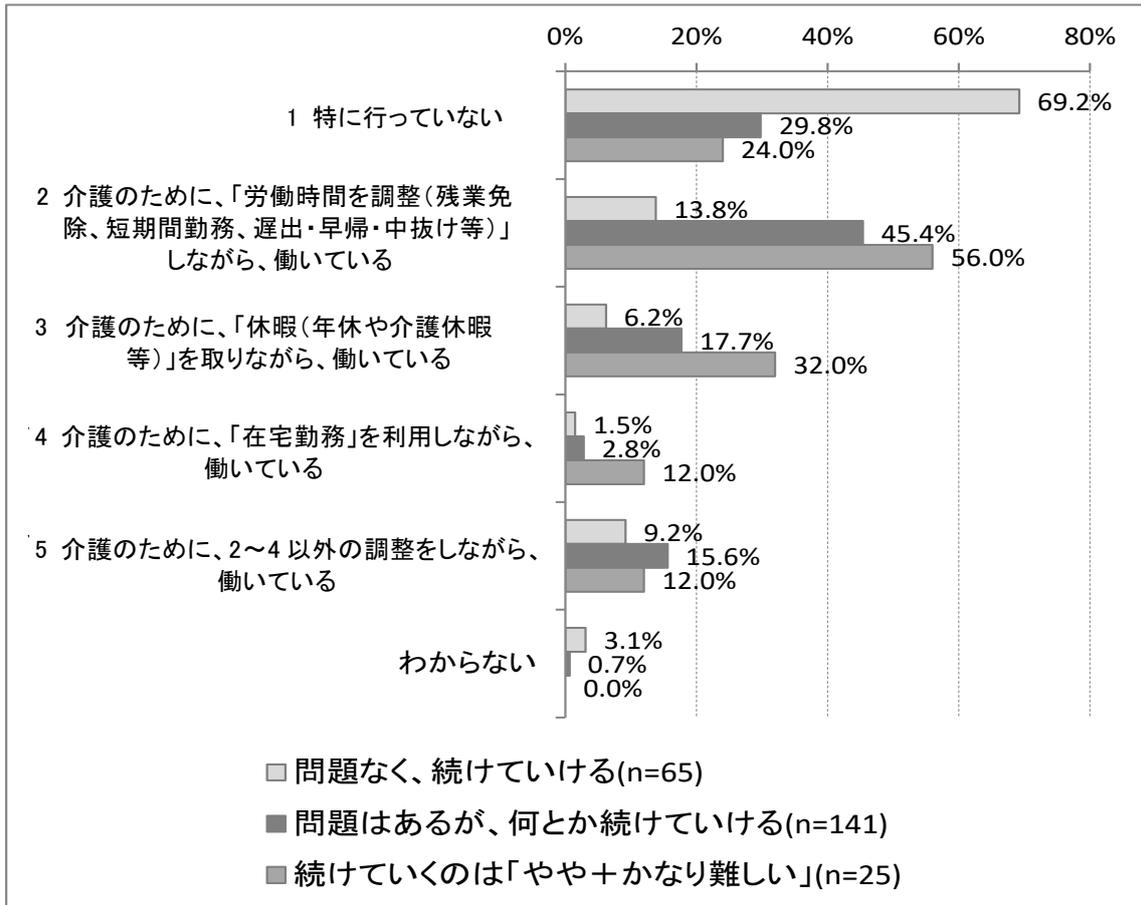
【就労状況別・介護のための働き方の調整】



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

○介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると，“問題なく、続けていける”では「特に行っていない」が69.2%ともっとも割合が高く，“問題はあるが、何とか続けていける”と“続けていくのは「やや+かなり難しい」”では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除，短時間勤務，遅出・早帰・中抜け等）」しながら，働いている」がそれぞれ45.4%，56.0%ともっとも割合が高くなっています。

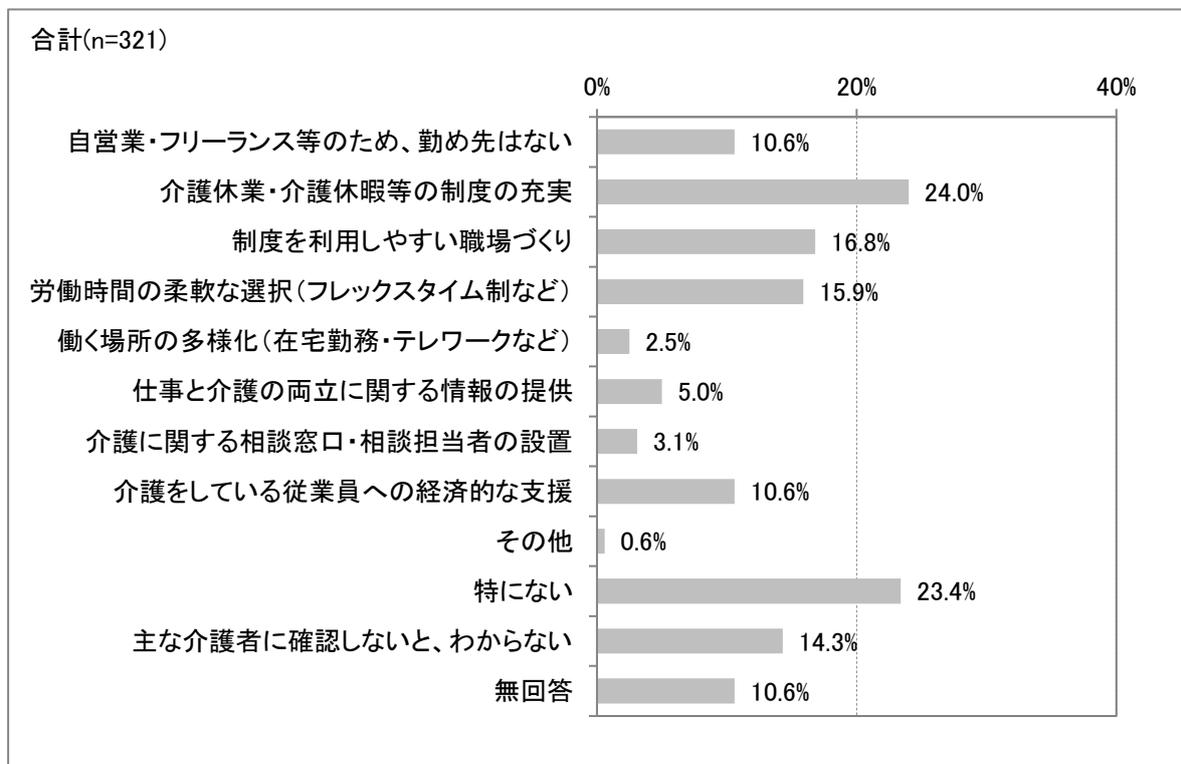
【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



問3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（MA）

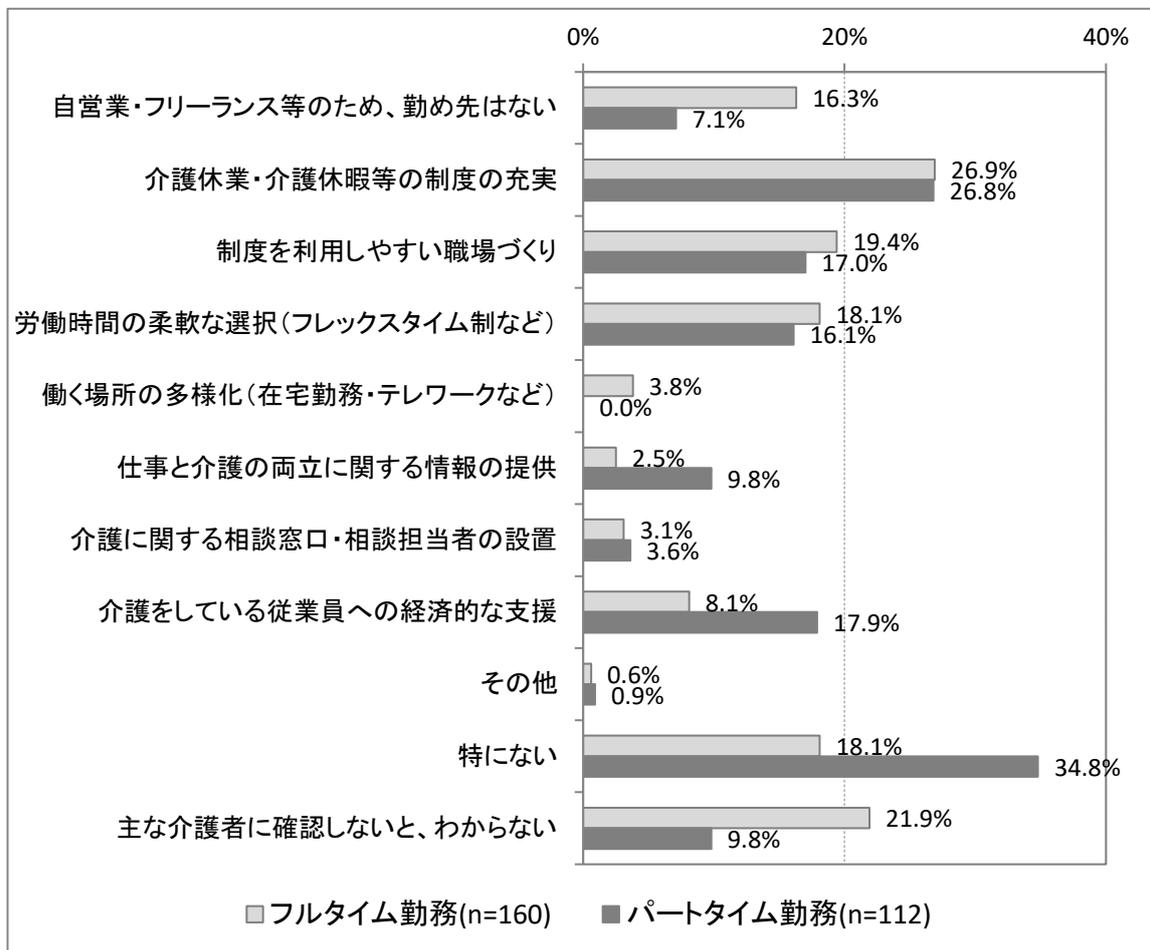
【問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」方限定】

○「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く24.0%、次いで、「特にない」が23.4%、「制度を利用しやすい職場づくり」が16.8%となっています。



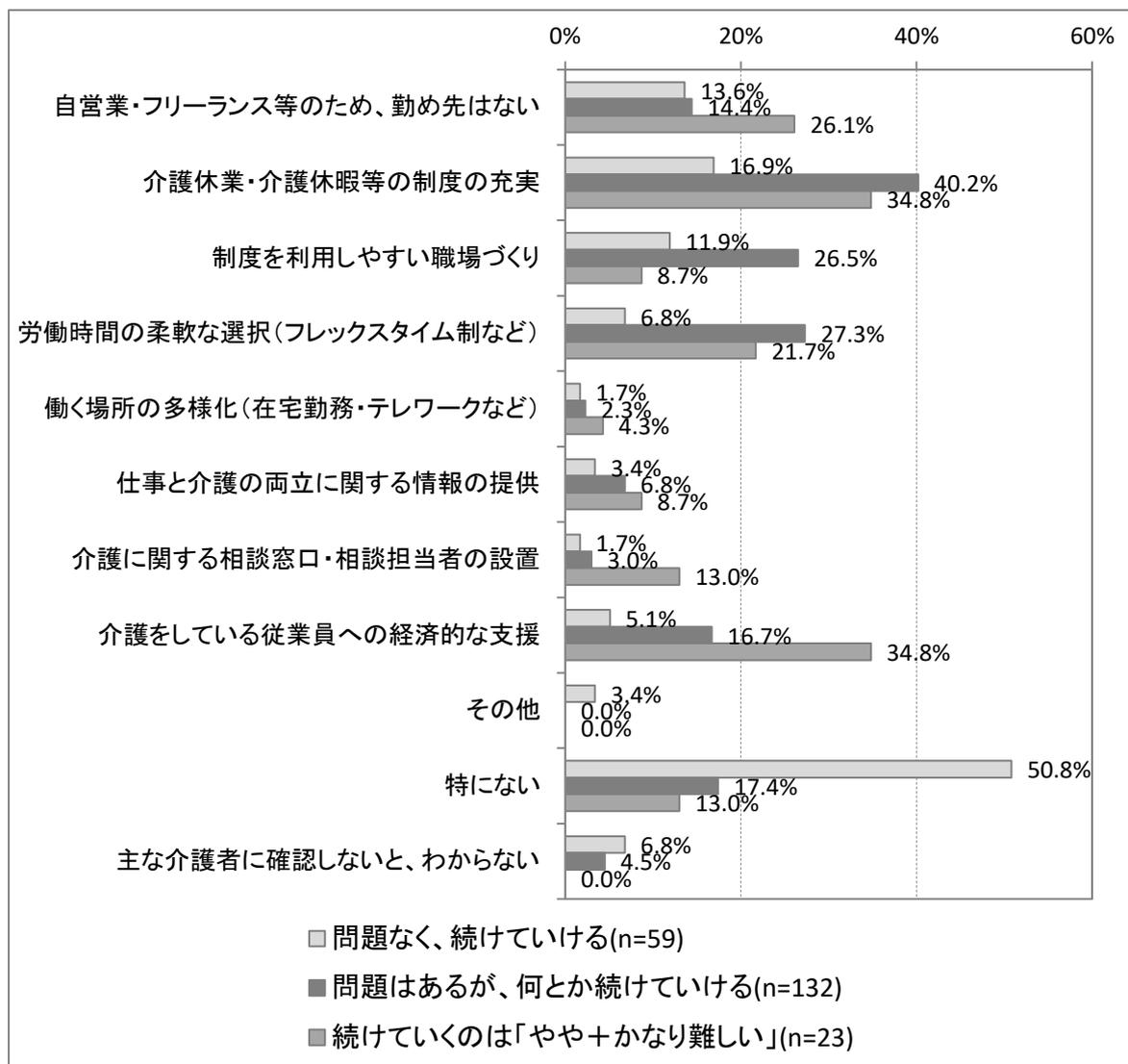
○介護者の勤務形態別にみると，“フルタイム勤務”では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.9%ともっとも割合が高く、次いで「主な介護者に確認しないと、わからない」が21.9%，“パートタイム勤務”では「特にない」が34.8%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.8%となっています。

【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】



○介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると，“問題なく、続けていける”では「特にない」が50.8%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が16.9%，“問題はあるが、何とか続けていける”では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が40.2%ともっとも割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が27.3%，“続けていくのは「やや+かなり難しい」”では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」，「介護をしている従業員への経済的な支援」が34.8%ともっとも割合が高くなっています。

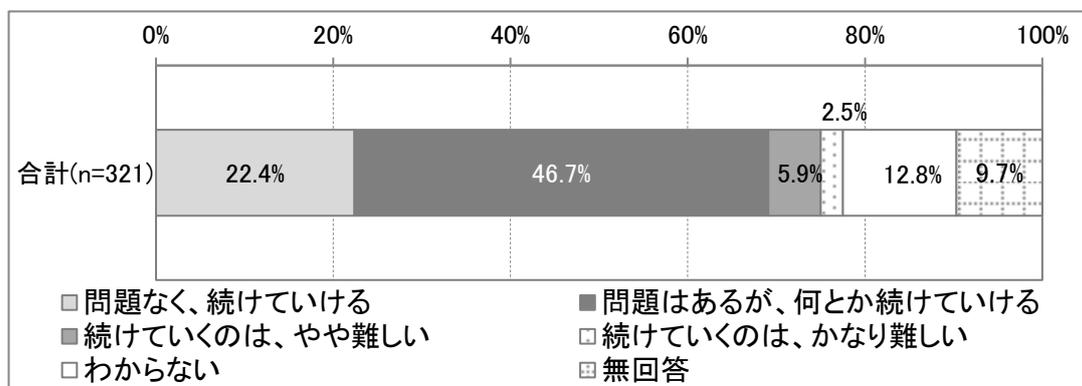
【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



問4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（SA）

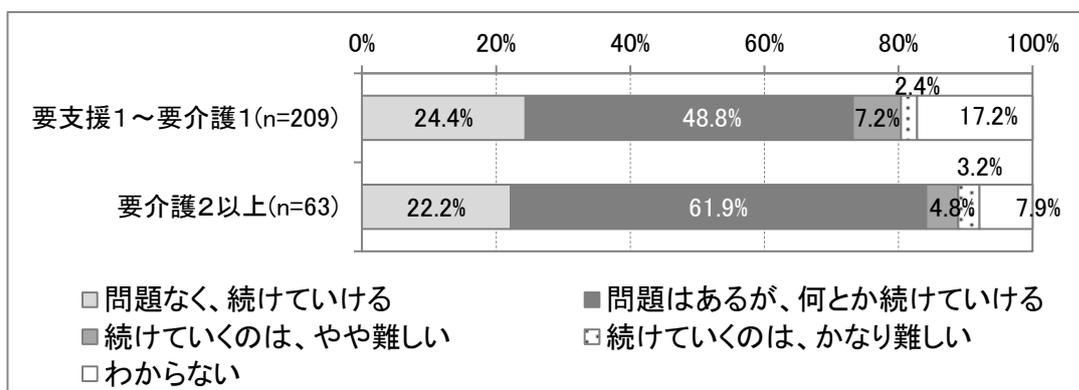
【問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」方限定】

○「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く46.7%、次いで、「問題なく、続けていける」が22.4%、「わからない」が12.8%となっています。



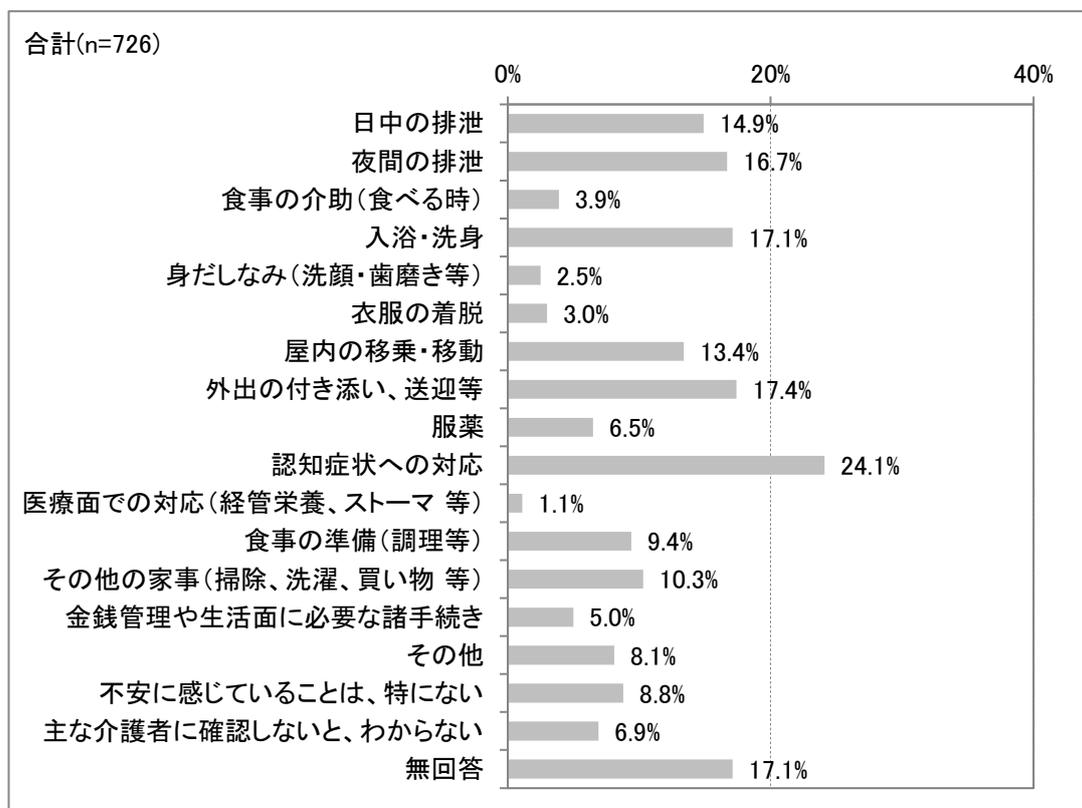
○要介護度別にみると，“要支援1～要介護1”では「問題はあるが、何とか続けていける」が48.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が24.4%，“要介護2以上”では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.9%、次いで「問題なく、続けていける」が22.2%となっています。

【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】



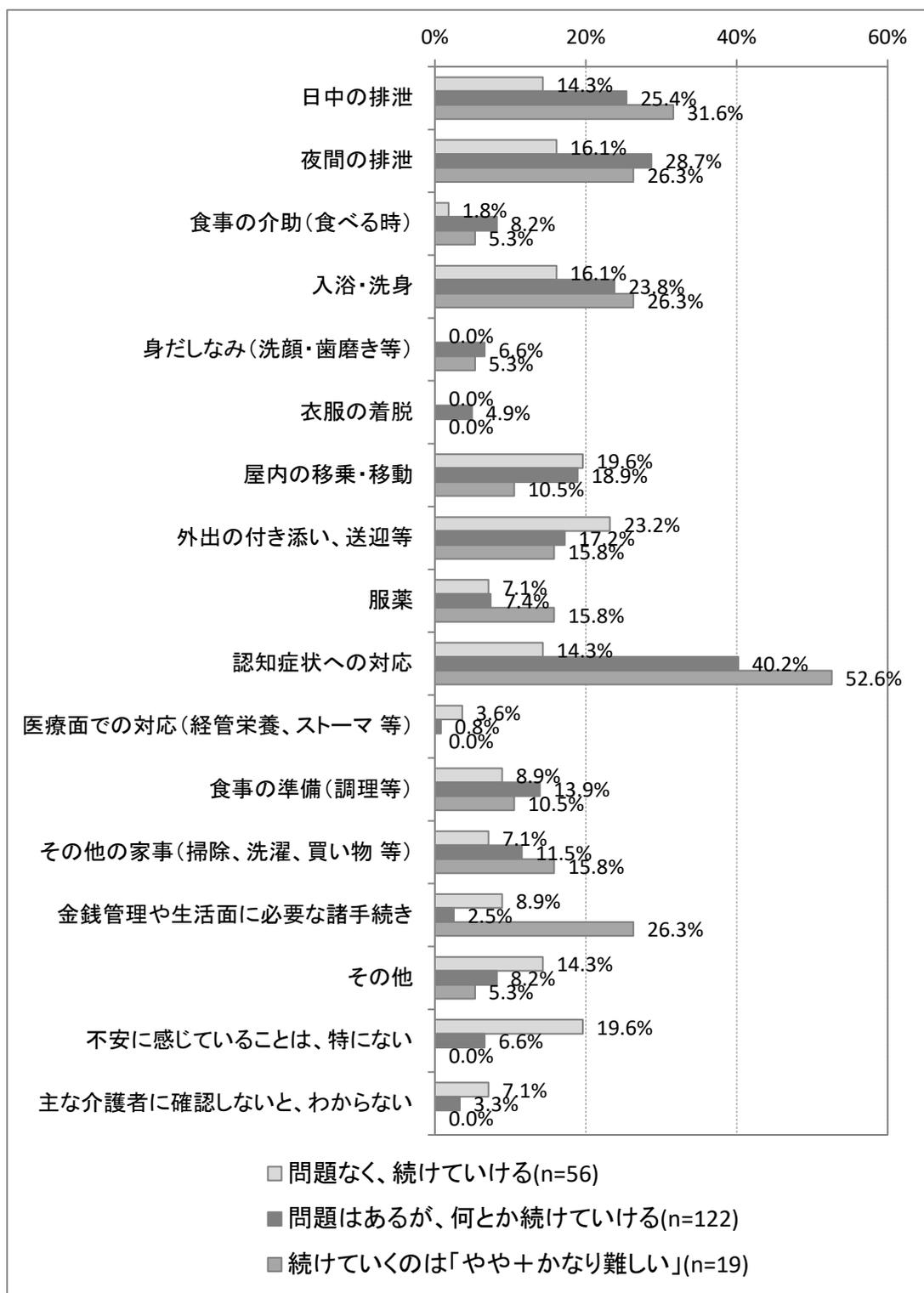
問5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（MA）

○「認知症状への対応」の割合が最も高く24.1%となっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等」が17.4%、「入浴・洗身」が17.1%となっています。



○介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、“問題なく、続けていける”では「外出の付き添い、送迎等」が23.2%ともっとも割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「不安を感じていることは、特にない」が19.6% “問題はあるが、何とか続けていける”では「認知症状への対応」が40.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が28.7%，“続けていくのは「やや+かなり難しい」”では「認知症状への対応」が52.6%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が31.6%となっています。

【就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

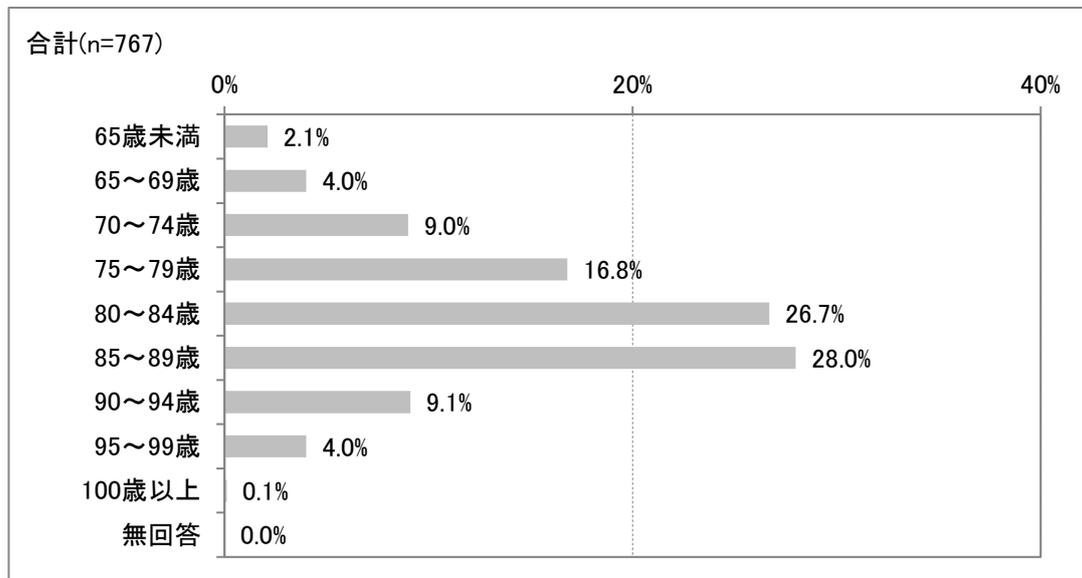


調査対象者の基本属性

※調査対象者の基本属性（①～⑨）は回答者の要介護認定データに基づく

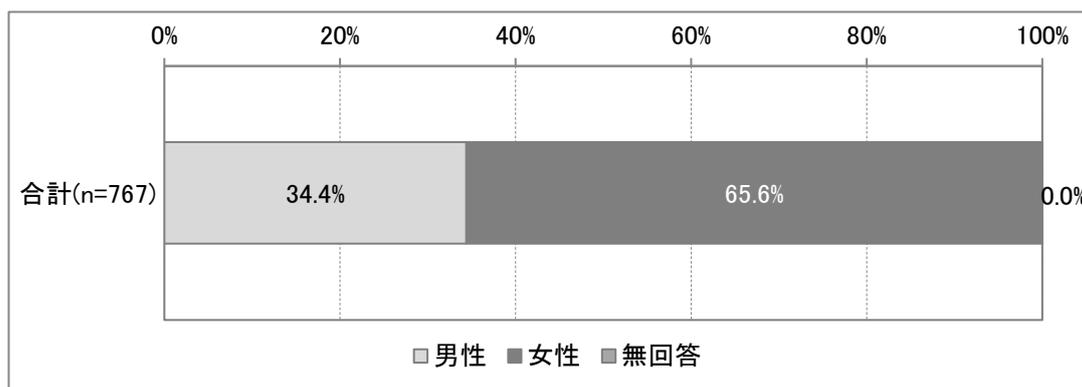
①年齢（SA）

○「85～89歳」の割合が最も高く28.0%、次いで、「80～84歳」が26.7%、「75～79歳」が16.8%となっています。



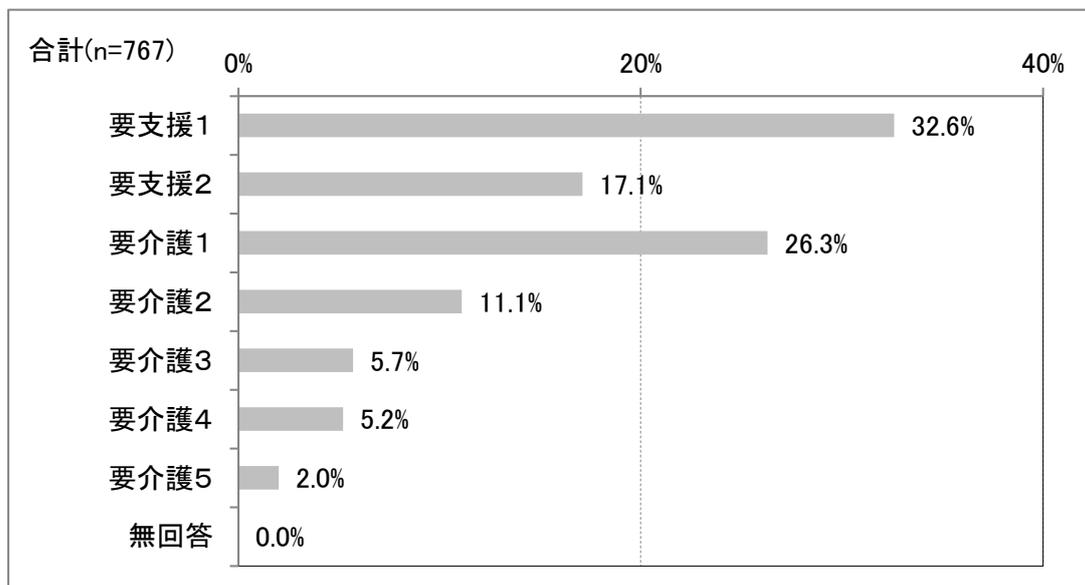
②性別（SA）

○「女性」が65.6%、「男性」が34.4%となっています。



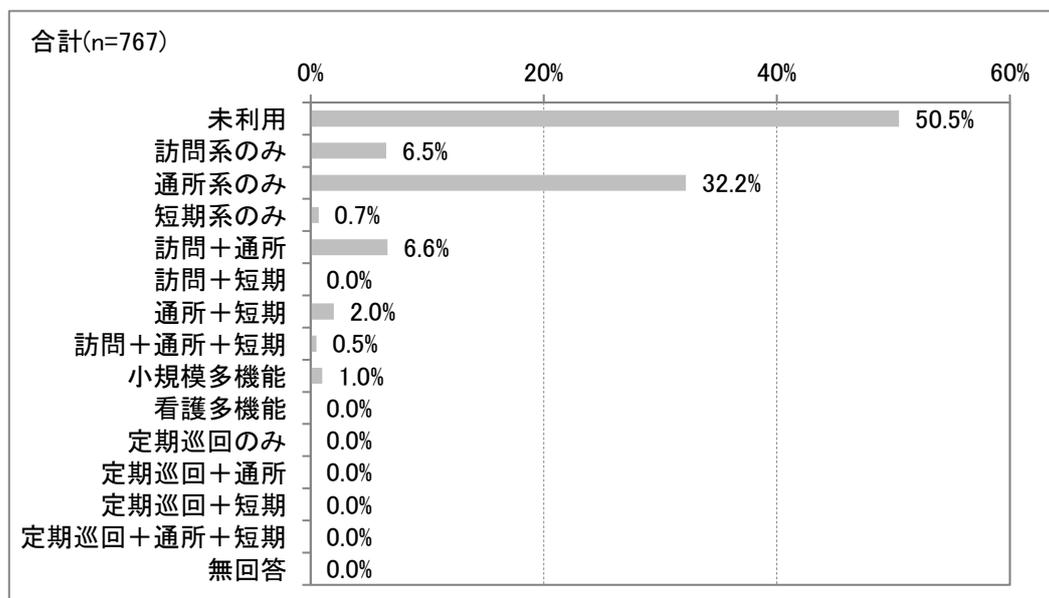
③二次判定結果（要介護度）（SA）

○「要支援1」の割合が最も高く32.6%、次いで、「要介護1」が26.3%、「要支援2」が17.1%となっています。

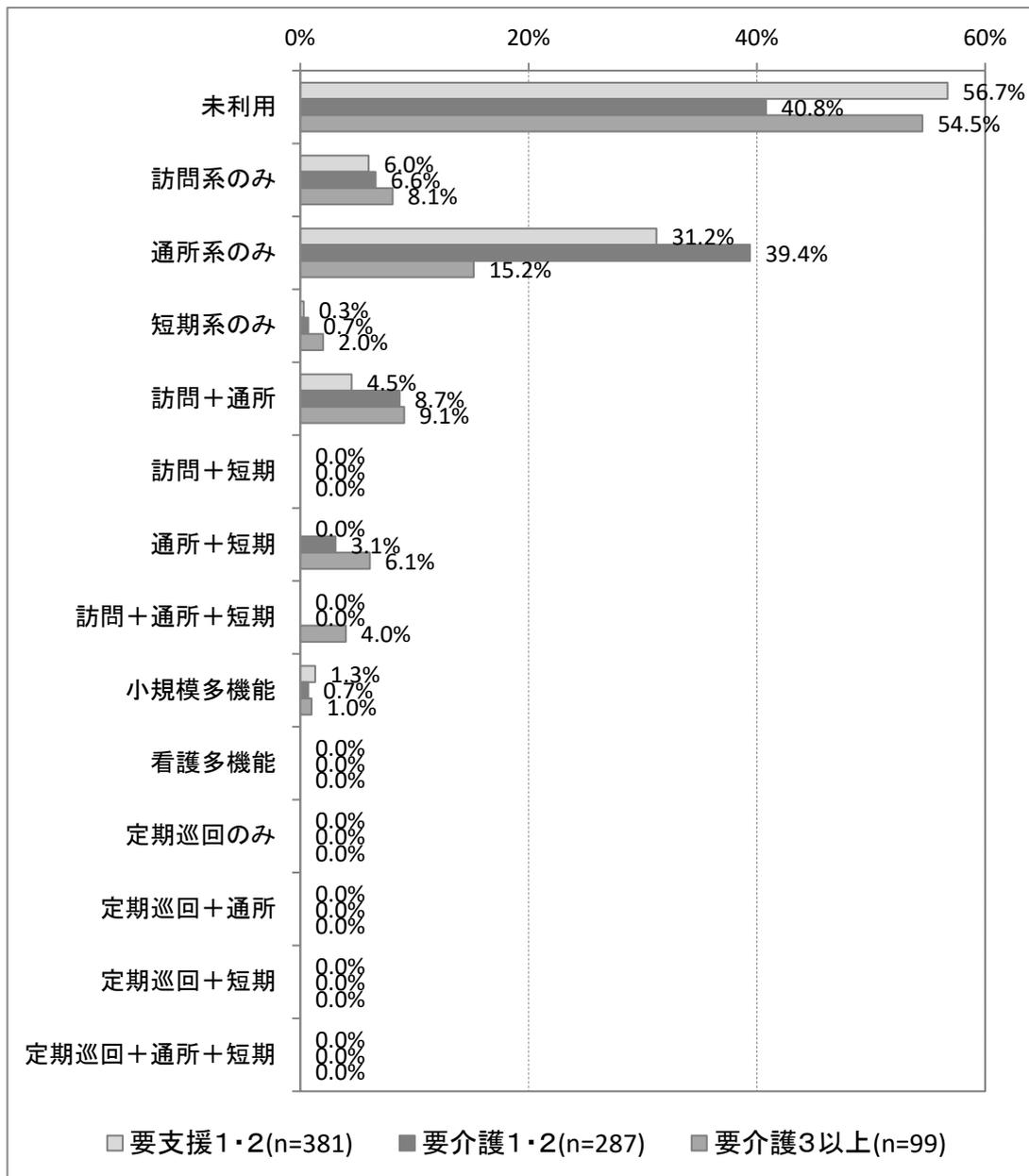


④サービス利用の組み合わせ（SA）

○「未利用」の割合が最も高く50.5%、次いで、「通所系のみ」が32.2%、「訪問+通所」が6.6%となっています。

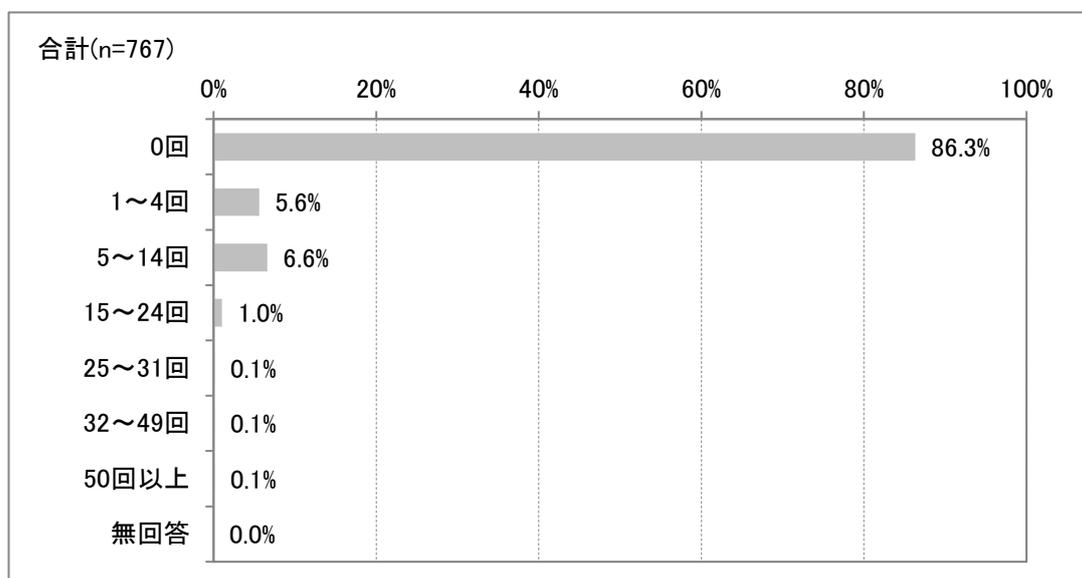


○サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、利用しているサービスとしては、「通所系のみ」が“要支援1・2”で31.2%，“要介護1・2”では39.4%，“要介護3以上”では15.2%と高くなっています。



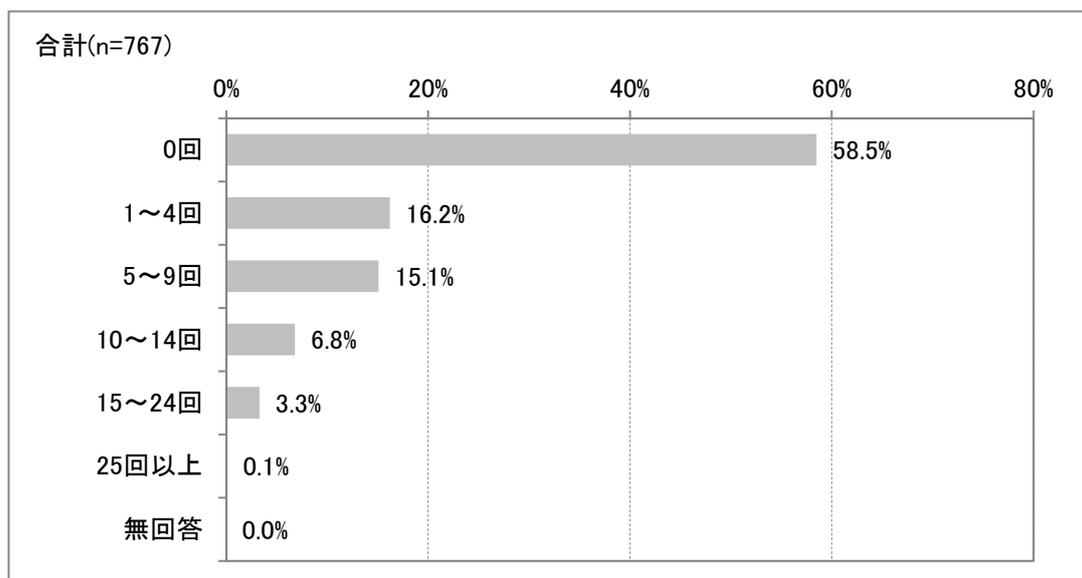
⑤訪問系サービスの合計利用回数（MA）

○「0回」の割合が最も高く86.3%となっています。次いで、「5～14回」が6.6%、「1～4回」が5.6%となっています。



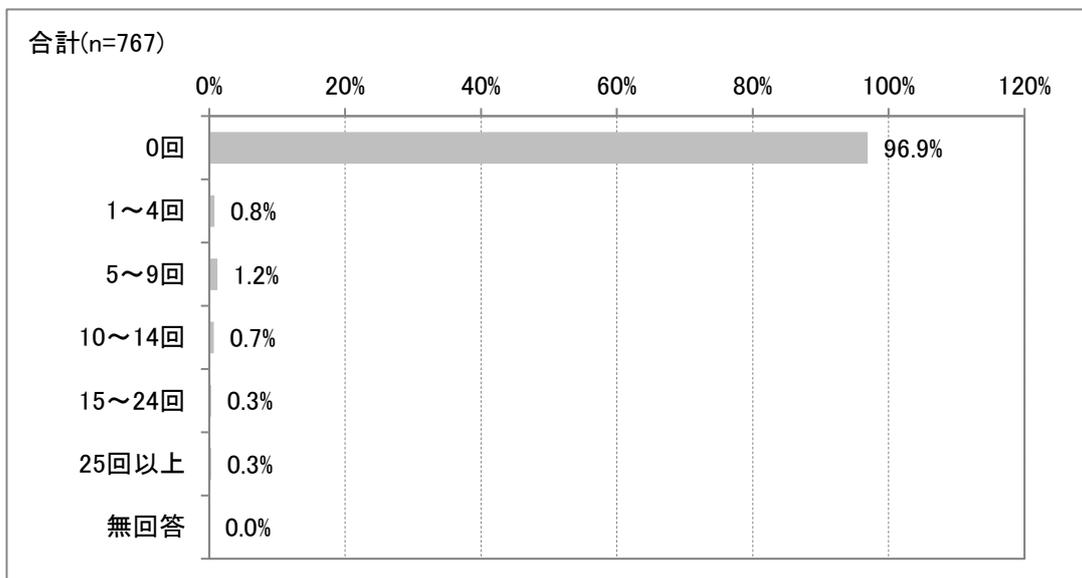
⑥通所系サービスの合計利用回数（MA）

○「0回」の割合が最も高く58.5%となっています。次いで、「1～4回」が16.2%、「5～9回」が15.1%となっています。



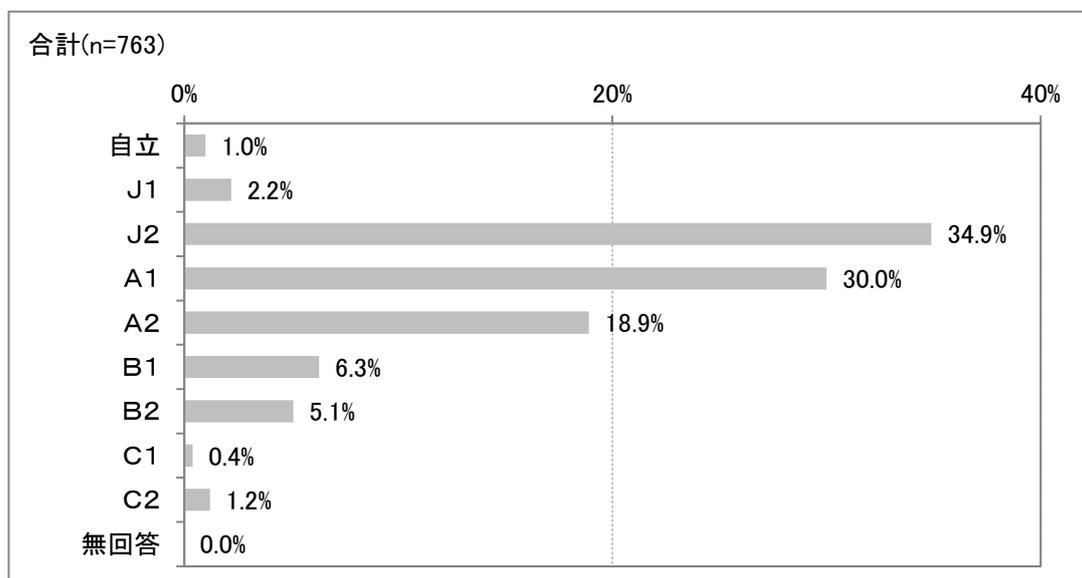
⑦短期系サービスの合計利用回数（MA）

○「0回」の割合が最も高く96.9%となっています。次いで、「5～9回」が1.2%、「1～4回」が0.8%となっています。



⑧障害高齢者の日常生活自立度（SA）

○「J2」の割合が最も高く34.9%となっています。次いで、「A1」が30.0%、「A2」が18.9%となっています。

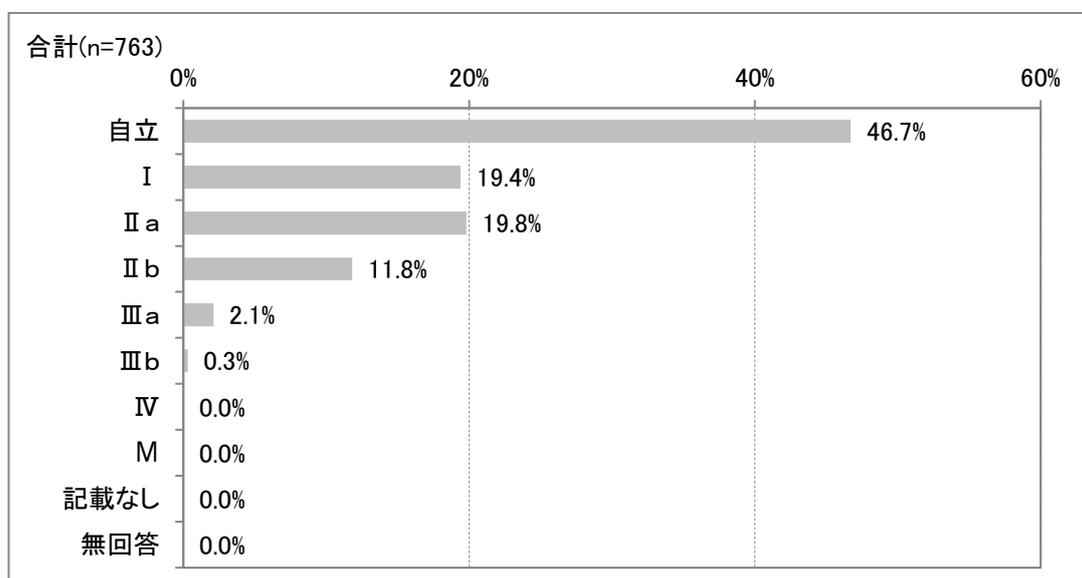


【障害高齢者の日常生活自立度の判断基準】

レベル		判断基準
生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄をベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

⑨認知症高齢者の日常生活自立度（SA）

○「自立」の割合が最も高く46.7%となっています。次いで、「Ⅱa」が19.8%、「Ⅰ」が19.4%となっています。



【認知症高齢者の日常生活自立度の判断基準】

レベル	判断基準
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態 基本的には在宅で自立した生活が可能なレベル
Ⅱa	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態
Ⅱb	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内でも見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態
Ⅲa	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態
Ⅲb	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態
Ⅳ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態